

業務資料 No. 371

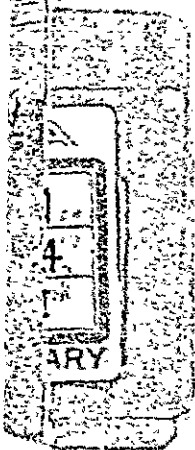
オンタリオ州
移住者動態調査

昭和51年3月

国際協力事業団

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

(移住部門)



国際協力事業団

受入 月日 84. 3.16	801
登録No. 00494	23.4
	EI

は し が き

カナダ移住は、その特質として、アンスポーサード方式(自主申請)移住が多く、これまでカナダ国へ渡った多くの移住者の動態をとらえることは、困難をきわめる。しかし、それ故により明確にそれら移住者の実態を把握しておかなければ、カナダ移住を的確に推進することは、不可能である。

このため、47年度は最も日本人移住者が集中しているオンタリオ州、また48年度はブリティッシュ・コロンビア州において動態調査を行ない、引き続き49年度はケベック州・平原三州(マニトバ州、サスカチュワン州、アルバータ州)、そして今年度は、就職機会が多いことによりアンスポーサード方式移住で日本人が多く集まるオンタリオ州のその後の変化を調べ、移住希望者への最新の情報提供に資するため動態調査を実施した。

カナダという広大な国土に散在する移住者の共通点あるいは習慣、環境による地域差や生活状況など、これまでの「ブリティッシュ・コロンビア州動態調査」(業務資料№284)「ケベック州・平原三州移住者動態調査」(業務資料№326)と比較参照し、移住希望者に対する相談業務資料として十分研究、活用願いたい。「オンタリオ州動態調査」(業務資料№240)については、本調査においても若干の比較検討を加えたが、詳細な比較考量は、個々に委ねられている。

最後に本調査にご協力下さった関係各位に対し、ここに謹んで深く感謝の意を表する次第である。

昭和51年8月

国際協力事業団
移住第二業務部長

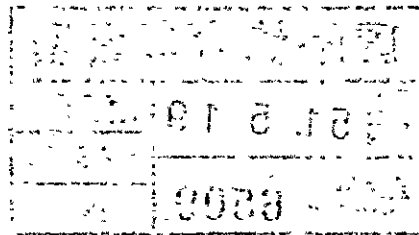
JICA LIBRARY



1035589[9]

目 次

I 調査の概要	3
1 調査の方法	3
2 分類集計の方法	3
3 アンケート回答者の傾向	3
II オンタリオ州の概況	12
III 調査結果の集計	14
IV 調査結果の考察	51
1 移住の動機	51
2 カナダ人に対する印象と移住希望者へのアドバイス	51
3 他州との比較	52
4 前回調査との比較	57
V 結 語	58
(参考) カナダ移住者動態調査票	59



I 調査の概要

1 調査の方法

- (1) 本調査は、1975年10月から1976年2月までの5カ月間に行なった。
 - (2) 当事業団トロント駐在員事務所を通じ、一定の調査用紙(アンケート方式、後記様式)をオンタリオ州在住の日本人移住者(戦後移住者)に郵送で配布し、回収した。
 - (3) 標本抽出の方法は無作為抽出方式をとった。
 - (4) 抽出源は、日本人リスト、移住相談訪問者、私設職業あっせん所の求職者、カナダ移住トレーニング・コース受講者、日本向一時帰国旅行者、日系会社勤務移住者、総領事館資料(在留届、婚姻届、出生届)その他スポーツ、趣味、交友等多種多様なグループである。
 - (5) 調査件数
- | | (今回) | (前回) |
|-----------|-------|-------|
| ○調査用紙配布総数 | 498部 | 458部 |
| ○有効回収部数 | 178部 | 248部 |
| ○無効回収部数 | 8部 | 0部 |
| ○有効回収率 | 35.7% | 55.1% |
- (6) 今回の調査においては、同国の長期郵便ストのため、前回のオンタリオ州動態調査より回収部数が減じたが、調査結果の内容としては、大きな影響はないと考えられる。

2 分類集計の方法

本調査はオンタリオ州移住者を対象としたものであり、48年度のB・C州、49年度のケベック州および平原三州移住者の調査と比較検討しやすくするため、記入方法が明確でない部分に若干の修正を加えた以外は、従前と同一のアンケート様式をもちいた。分類、集計においても昨年度と同様の形式をとり、B・C州移住者、ケベック州および平原三州との類似点を見ることにより、日本人カナダ移住者の傾向を考察し、差異点を見ることにより、カナダ国内での地域差からくる移住者の生活の差を明確にするよう努めた。アンケート項目によっては、単純集計のみにとどまらず、職種別、未既婚別、在加年数別等も考察に入れ、多角的な集計分析を行なった。なお、昭和47年度に行なったオンタリオ州調査とも比較し、前回からの変化を追ってみた。

3 アンケート回答者の傾向

男女別では男性83.1%、女性16.9%。年齢別では26~30才が40.5%と多い。在加年数は7年以上が20.2%、3年以上の者を含めると56.7%となっている。学歴別では、大卒が48.3%とは半数を占めている。既婚者家庭構成は、夫婦のみ、または子供1~2名が92.3%と圧倒的に多く、未婚者と既婚者の割合では、未婚者が39.3%、既婚者が60.1%となっている。職種別では、専門技術者・特殊技能者が22.0%、次いで事務系従事者が21.4%となっている。それぞれの内訳は次の通りである。

なお、前回のオンタリオ州調査(以下前回調査という。)と比較すると次の通りで、既婚者

が多くなっているが、基本的には前回と今回のアンケート回答者の傾向は変わっていないと言える。

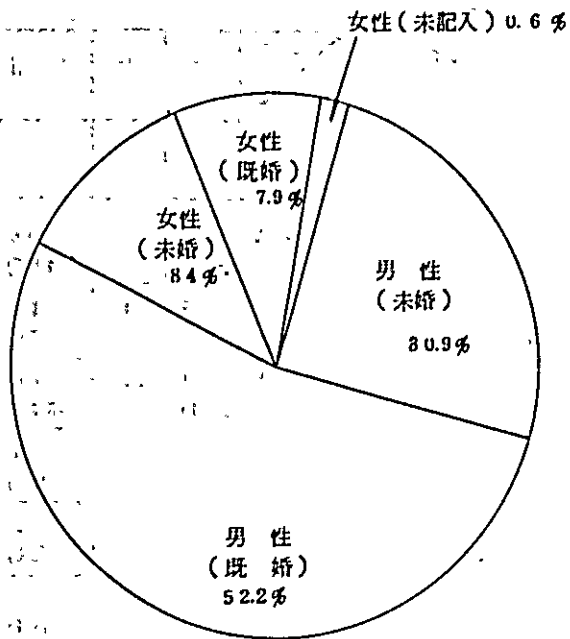
区 分	今 回 調 査		前 回 調 査	
男 女 別	男	83.1%	男	77.8%
年 令 別	26～35才	61.8%	26～35才	65.4%
未 既 婚 別	未 婚	39.3%	未 婚	50.8%
在 加 年 数 別	3 年 以 上	56.7%	3 年 以 上	48.8%
既 婚 者 家 族 構 成 別	夫婦のみ子供1～2名 92.8%		夫婦のみ子供1～2名 93.4%	

表1-1 未・既婚・年齢・性別

注 ()は%を示す

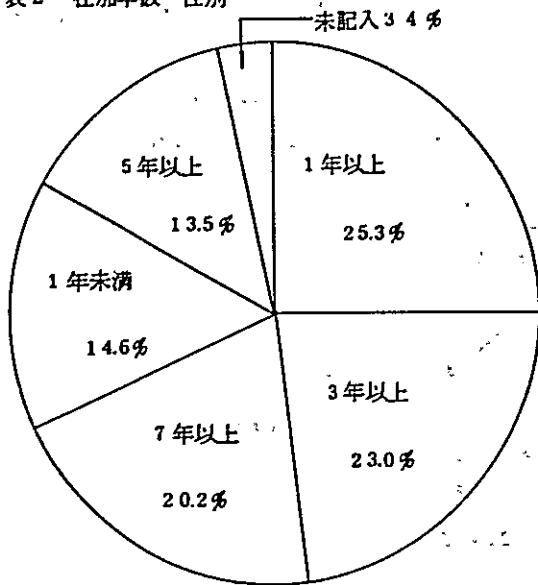
未既婚 性別 年齢	男			女				総 計
	未 婚	既 婚	計	未 婚	既 婚	未 記 入	計	
20才以下								
21～25	12	5	17 (11.5)	2	5		7 (23.3)	24 (13.5)
26～30	36	29	65 (43.8)	2	5		7 (23.3)	72 (40.5)
31～35	3	31	34 (23.0)	4			4 (13.3)	38 (21.3)
36～40	1	12	13 (8.8)	2			2 (6.7)	15 (8.4)
41才以上		14	14 (9.5)	3	1		4 (13.3)	18 (10.1)
未 記 入	3	2	5 (3.4)	2	3	1	6 (20.1)	11 (6.2)
合 計	55 (30.9)	93 (52.2)	148 (83.1)	15 (8.4)	14 (7.9)	1 (0.6)	30 (16.9)	178 (100.0)

表1-2 未・既婚・年齢・性別



(総合)

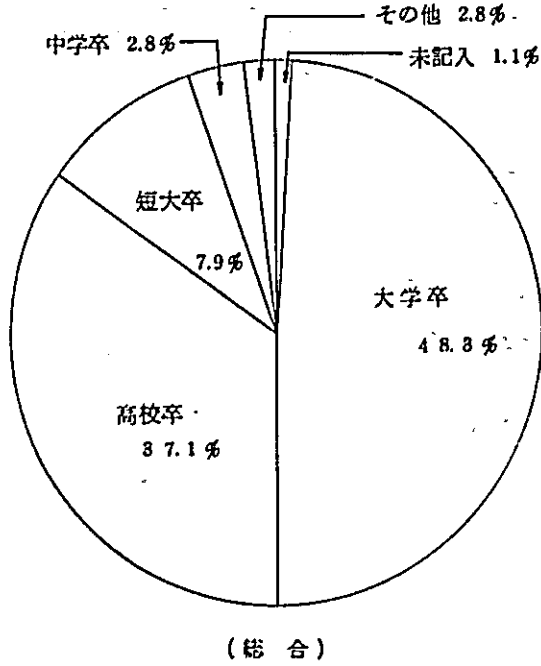
表2 在加年数・性別



(総合)

性別 在加年数	性別		総計
	男	女	
7年以上	31	5	36 (20.2)
5年以上	20	4	24 (13.5)
3年以上	35	6	41 (23.0)
1年以上	38	7	45 (25.3)
1年未満	20	6	26 (14.6)
未記入	4	2	6 (3.4)
合計	148	30	178 (1000)

表3 最終学歴・性別



性別	男	女	総計
大学院卒			
大学卒	77 ※(8)	9	86 (48.8)
短大卒	6	8	14 (7.9)
高校卒	54 ※(1)	12	66 (37.1)
中学卒	5		5 (2.8)
その他	4	1	5 (2.8)
未記入	2		2 (1.1)
合計	148 ※(4)	30	178 (100.0)

※印は中途退学者

表4-1 出身県別・性別

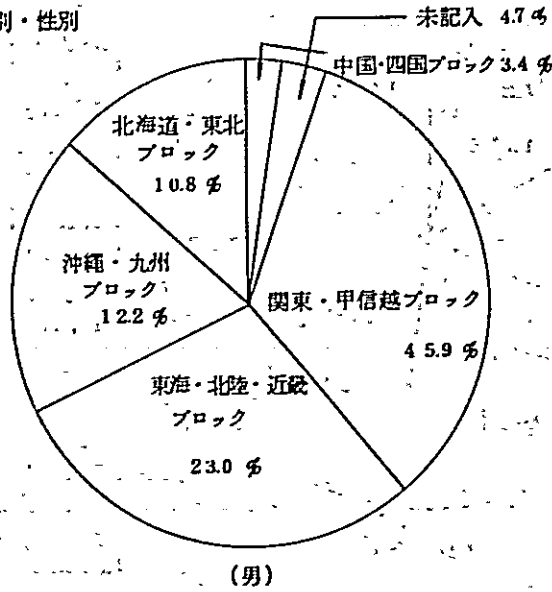
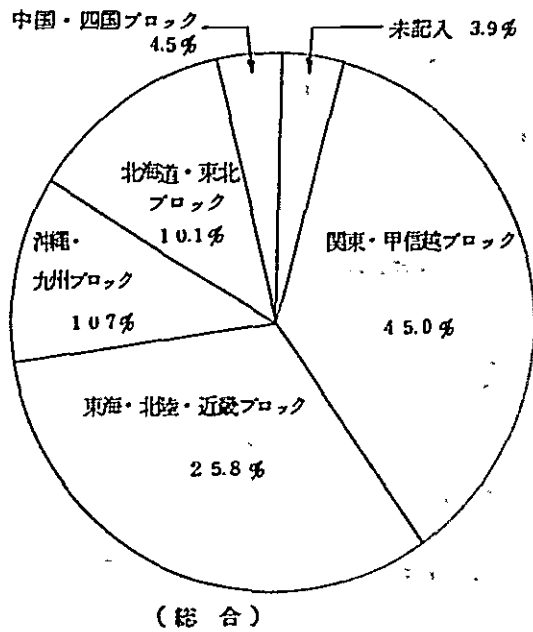
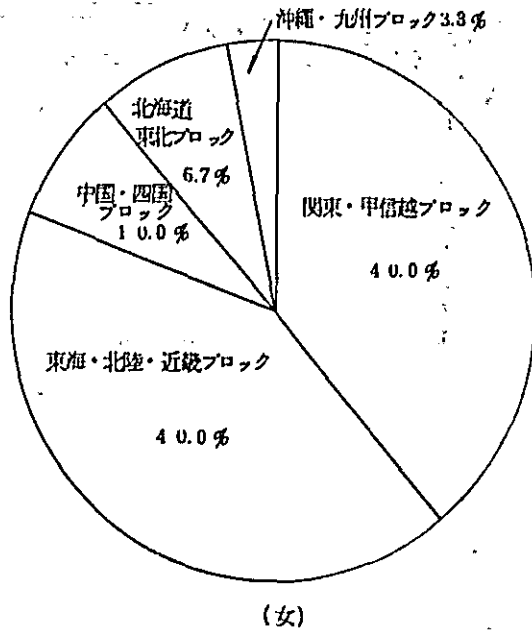
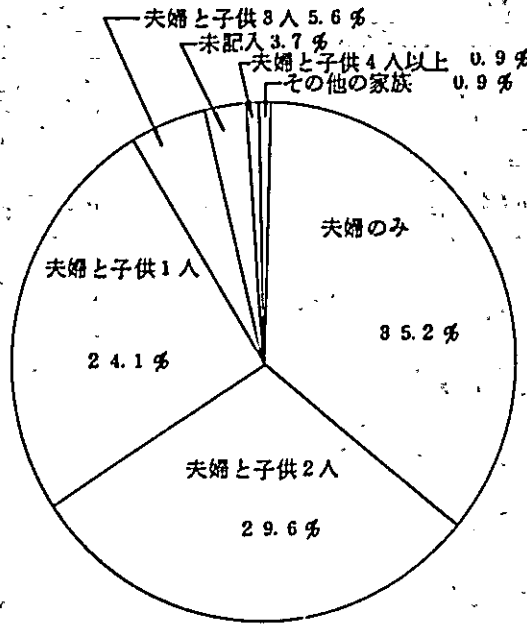


表4-2 出身県別・性別

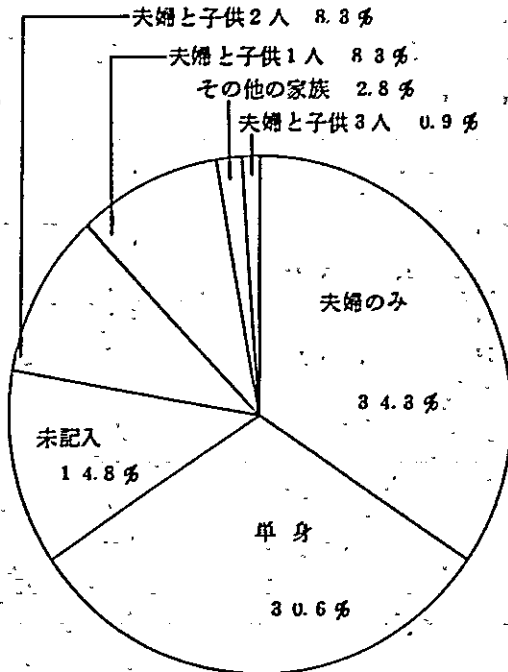


出身県	性別	
	男	女
北海道	5	1
青森	1	
岩手		
宮城	2	
秋田	2	
山形	2	
福島	4	1
新潟	2	
茨城	2	
栃木	2	
群馬		
埼玉	5	1
千葉県	5	1
東京都	33	8
山梨		
長野	2	
神奈川県	11	2
静岡県	6	
富山		
石川県	3	
岐阜	1	
愛知	3	
三重		
福井		
滋賀	3	
京都	4	1
大阪	12	8
奈良	3	
和歌山	1	1
兵庫県	4	2
鳥取		
岡山	2	1
広島	1	
山口	2	1
徳島		
香川		
愛媛		
高知		
福岡	4	
佐賀		
長崎		
熊本	2	
大宮	4	
鹿児島	6	
沖縄	2	1
未記入	7	
合計	148	30

表5-1 既婚者家族構成



(現在)

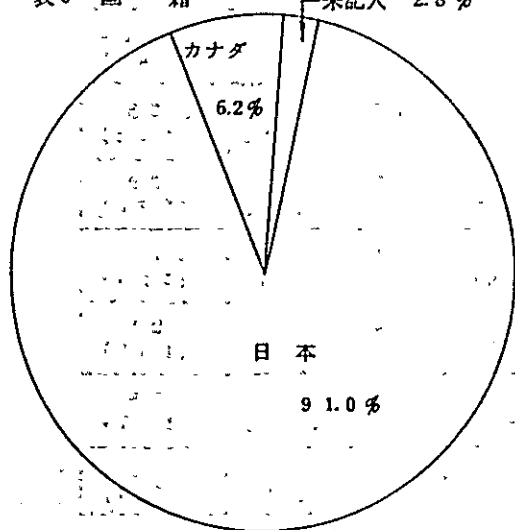


(渡航時)

表5-27 既婚者家族構成

家族構成	性別			現 在			渡 航 時		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
単 身				25	8	33 (30.6)			
夫 婦 の み	30	8	38 (35.2)	32	5	37 (34.3)			
夫 婦 と 子 供 1 人	24	2	26 (24.1)	9		9 (8.3)			
夫 婦 と 子 供 2 人	30	2	32 (29.6)	8	1	9 (8.3)			
夫 婦 と 子 供 3 人	6		6 (5.6)	1		1 (0.9)			
夫 婦 と 子 供 4 人 以 上	1		1 (0.9)						
そ の 他 の 家 族	1		1 (0.9)	3		3 (2.8)			
未 記 入	1	3	4 (3.7)	15	1	16 (14.8)			
合 計	93	15	108 (100.0)	93	15	108 (100.0)			

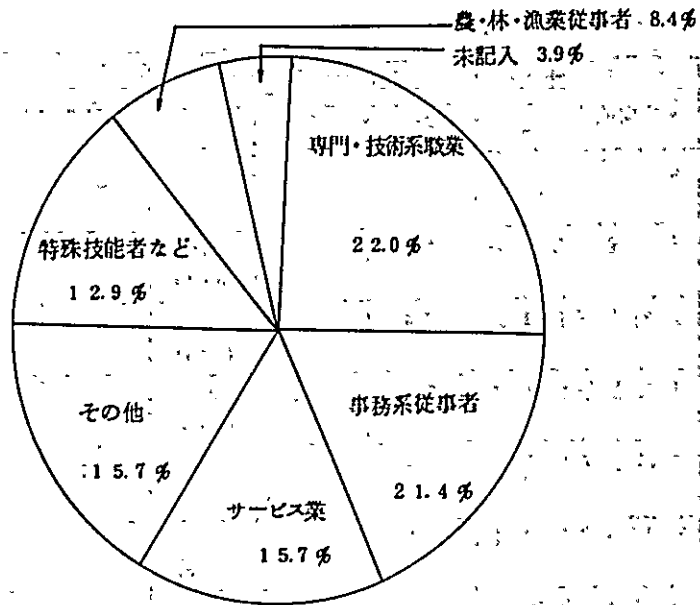
表6 国 籍



国籍	性別		総 計
	男	女	
日 本	136	26	162 (91.0)
カナダ	7	4	11 (6.2)
未 記 入	5		5 (2.8)
合 計	148	30	178 (100.0)

(総 合)

表7 職業別・性別



(総合)

職業別	性別		男		女		総計
	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 農・林・漁業従事者	15	(10.1)					15 (8.4)
2. 事務系従事者	24	(16.2)			14	(46.7)	38 (21.4)
3. 専門・技術系職業	37	(24.9)			2	(6.7)	39 (22.0)
4. 特殊技能者など	22	(14.9)			1	(3.3)	23 (12.9)
5. サービス業	26	(17.6)			2	(6.7)	28 (15.7)
6. その他	18	(12.2)			10	(33.3)	28 (15.7)
未記入	6	(4.1)			1	(3.3)	7 (3.9)
合計	148	(100.0)			80	(100.0)	178 (100.0)

職業分類については次のとおりとした。

1. 農業従事者

農夫、庭師、造園業者、牧場経営、酪農業者、雛の鑑別師

2. 事務系従事者

プログラマー、キーパンチャー、タイピスト、秘書、レストランマネージャー、経理士、事務員、会社管理職、会社員、連邦政府職員、検査官、貿易業務者、海運事務、証券外務員、司書

3. 専門・技術系職業

(1) 技術的従事者

(2) 教授および教師

(3) 医療関係従事者

建築設備技術者、建築製図者、弱電技術者、電子技師、電信技師、設計技師、工業技術者、機械技師、工業デザイナー、映写技師、化学技師、化学研究員、カメラマン、動物学者、教師、薬剤師、衛生検査技師、歯科技工士、ソーシャルワーカー

4. 特殊技能者、生産工程従事者および単純労働者

自動車整備工、自動車塗装工、金型工、鋳物工、道具打ち型工、印刷工、機械工、キャビネット組立工、工場労働者、彫刻師、洋装師

5. サービス業

ギフトショップ経営、レストラン経営、製パン業、ガソリンスタンド経営、個人タクシー、ホテル従業員、理容師、調理師、ウエイトレス、ウエイター

6. その他

学生、牧師、主婦、無職

II オンタリオ州概要

州面積は約百万平方キロ（日本の約2.8倍）で、人口は7,939,000人、住民の半数以上が英国系で、次いで仏系が約1割を占めている。カナダ全人口の約75%がアメリカとの国境100マイル（約160キロ）に住んでいるが、オンタリオ州においても、アメリカと国境を接する5大湖付近、セントローレンス河流域に大部分が密集居住している。

オンタリオ州北部は、カナディアン・シールド（Canadian Shield）（ハドソン湾を中心に大西洋から北極海にかけて西から北へ広がる非常に古い、堅い岩石で形成されたなだらかな丘陵と無数の湖沼から成る地帯）の中にあり、南部も8分の1はカナディアン・シールドにあり、残り3分の2は、石灰岩や頁岩の地盤の上であって農耕に適した、気候の温和な地域である。

気温は大陸性気候でオンタリオ州の年平均気温は零下12℃、夏季は13℃であり、南部は冬季零下9℃、夏季18℃であるが、35℃以上になることもしばしばある。北部は冬季に零下50℃を越えることもある。降雨量は、南部で年間87cmを越え、北部では約73cmである。降雪量は多く、5大湖地方は、年間250cmを越えている。北部では、夏季は、7、8月の2カ月に限られ、8月も下旬になると初霜が多く見られる。

ちなみにトロント市の1971年の年間平均気温は9℃、冬季最低は1月の零下16℃、夏季最高は6月の34℃で、12月～3月の平均は約零下2℃である。年間降雨量は39cm、降雪量は161cmで、春における最後の降霜および降雪は4月24日、秋の初霜および初雪は11月7日であった。州の政治機構は、連邦政府機構と殆んど同様であり、副総督が女王を代表している。副総督は、5年の任期で、連邦政府首相の推せんにより、総督が任命する。副総督は、連邦における総督と同様、州議会に対する形式的な権限を有するに過ぎない。立法機関としては、公選議員からなる州議会がこれにあたり、州議会は一院制である。行政機関としては、州議会において多数を占める政党により組織された首相と州大臣があたる。

オンタリオ州はカナダ経済の中心である。カナダ全人口および労働力の40%弱、国民総生産の40%以上、製造工業生産高の54%がオンタリオ州に集中している。人口増加率もカナダの平均を上まわり、特に大トロントの人口増加率は年4～5%といわれている。失業率は逆に全カナダの平均を1%以上下まわり、この点からいっても就職機会の多いことが判る。オンタリオ州では、他州に比べ、農林水産業の比重が小さく、他方製造工業の比重が大きい、自動車生産の90%以上、産業用電気機械、鉄鋼生産の80%以上等、第二次産業においてはカナダのみならず、世界の大産業地域の一つにもなっている。そしてオンタリオ州経済といっても、殆んどがトロントを中心とする5大湖周辺とセント・ローレンス河流域に限定され、この地域によって、オンタリオ州経済の90%は動いているといっても過言ではない。鉱業も非常に盛んであり、カナダが産出する大部分のカドミウム、カルシウム、コバルト、マグネシウム、ニッケル、塩、銀、ウラニウム、ならびに銅、金の多くはこの州で採れる。

林業においては、州面積の約40%の森林資源産出地帯があり、オンタリオ州はB・C州に次い

でカナダ第2位の木材産出を誇っている。この州は、カナダで最も肥沃な農耕地帯でもあって、国全体の現金収入農産物の約80%を生産する。高度の多角経営農業が行なわれ、酪農、畜産やタバコ、野菜、果実の栽培がなされている。

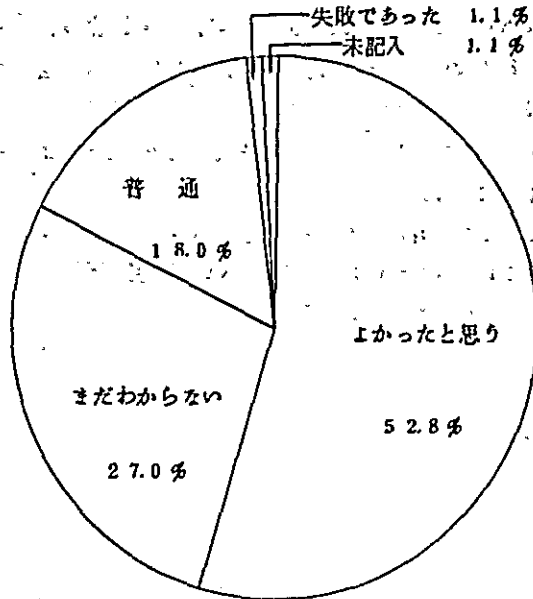
日本の商社等では、JETRO、国際観光振興会、三井、三菱、住友、伊藤忠、東銀、富士銀、トヨタ、日産、日立、松下その他多数の商社、銀行、製造会社が現地法人や駐在員により活発な経済活動を行なっている。

日本人移住者の数は、移動が頻繁で実数を把握することは困難であるが1975年の外務省在留邦人統計によると、8,918人である。

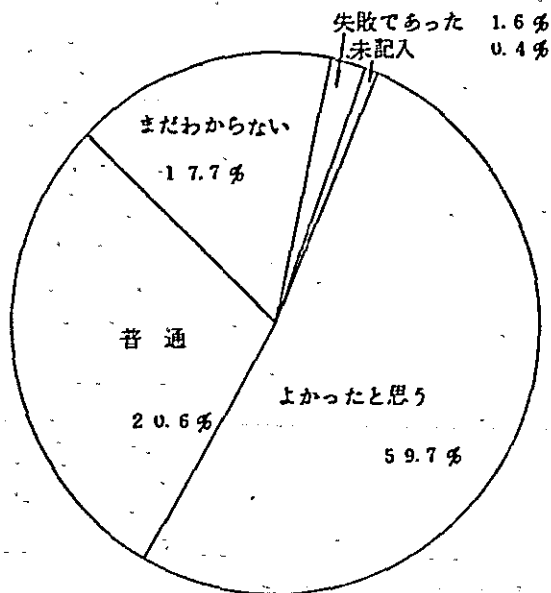
日本語学校としては、1949年9月創設されたトロント市日本語学校がある。また、広く日本文化を紹介するため、1963年9月日系文化会館が開設され、日系人のみならず、他のカナダ人をも対象に多彩なわが国の文化的事業を行なっている。

Ⅲ 調査結果の集計

1 カナダに移住して来てよかったですか (在加年数, 性別)



(総合)



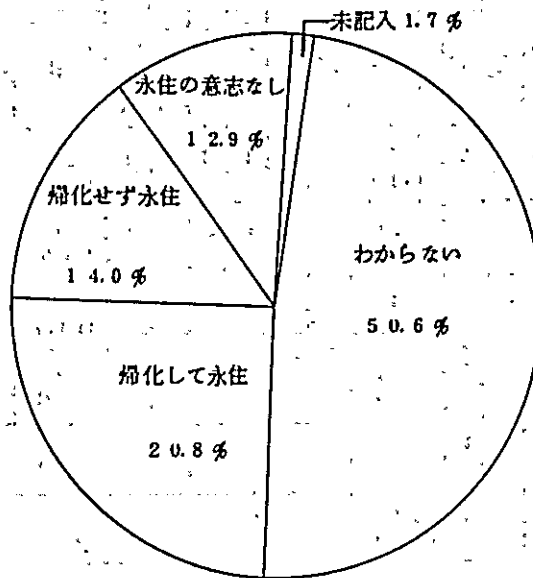
(前回調査)

性別 在加年数 区分	男性							女性							総計
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	
ア.よかったと思う	20	12	17	20	5	2	76 (51.8)	4	4	4	3	2	1	18 (60.1)	94 (52.8)
イ.普通	6	5	8	5	2		26 (17.6)	1		1	2	1	1	6 (20.0)	32 (18.0)
ウ.まだわからない	5	8	10	13	13		44 (29.7)			1	1	2		4 (13.3)	48 (27.0)
エ.失敗であった						1	1 (0.7)					1		1 (3.3)	2 (1.1)
未記入						1	1 (0.7)				1			1 (3.3)	2 (1.1)
合計	31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

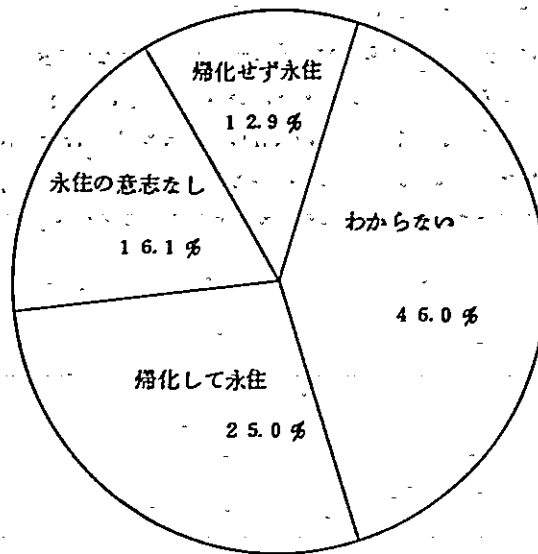
大半の者は移住してよかったと思ひ、失敗であったと考える者は1名ときわめて少ない。在加年数が長くなるほどこの傾向は強くなっており、在加年数5年以上で移住してよかったと思う者66.7名に対し、1年未満では26.9名となっている。男女別の差異で目につくのは、よかったと思うのは女性の方が多く、まだわからないという慎重派は男性の方が多い。

前回の調査と比較すると、最も目につくのは、前回の調査では、「よかった」または「普通」と答えた者が80.3名に対し、今回は、70.8名と減っており、逆に「まだわからない」は前回17.7名に対し、今回は27.0名と増えていることである。回答者の傾向に著しい差異が認められないのであるから、最近の不況で先の見通しに自信をもって答えられない面があるのであろう。しかし、失敗と考える者は前回、今回ともに1名と少ないことは、カナダ移住を考える上で喜ばしいことである。

2- カナダに永住する希望がありますか (在加年数, 性別)



(総合)



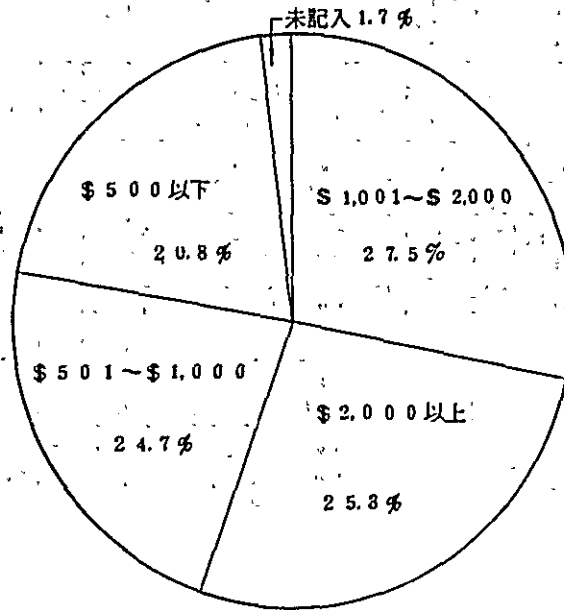
(前回調査)

区 分	男 性							女 性							総計
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	
ア. 帰化して永住	9	6	5	7	2	1	30 (20.3)	3	1		1	1	1	7 (23.3)	37 (20.8)
イ. 帰化せず永住	6	3	9	4	1		23 (15.5)		1		1			2 (6.7)	25 (14.0)
ウ. わからない	15	10	12	23	14	1	75 (50.7)		2	5	3	4	1	15 (50.0)	90 (50.6)
エ. 永住の意志なし	1	1	9	4	3	1	19 (12.8)	1		1	1	1		4 (13.3)	23 (12.9)
未 記 入						1	1 (0.7)	1			1			2 (6.7)	3 (1.7)
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

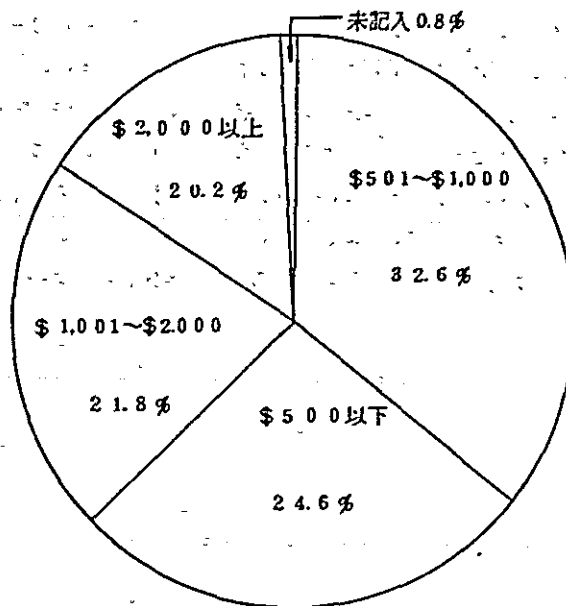
帰化するかどうかは別にして永住の意志ありと答えた者が34.8%、永住の意志のない者は、12.9%である。移住してよかったと考える者52.8%という数字と比べると、永住意志のある者が少ないように思われる。性別では特に顕著な差異は見られない。在加年数別でみると、7年以上の者で永住意志を有する者50.0%に対し、1年未満の者15.4%と、在加年数の長い者ほど永住意志を有する者が多くなる。「わからない」と答えた者が半数を超えているのは、慎重の故か、考えていないのか、この調査では不明であるが、カナダ移住の特殊性として、日本に帰ろうと思えばすぐにも帰れるという気楽さがあると言える。現にブラジルの工業技術移住者実態調査では定住意志を有する者93%と比べ合わせると特にこの感がある。

前回と今回の調査の比較では、殆んど差異は認められないが、永住意志のない者が少し減っている。

3 渡航時の携行金はどの位でしたか (未既婚, 性別)



(総合)



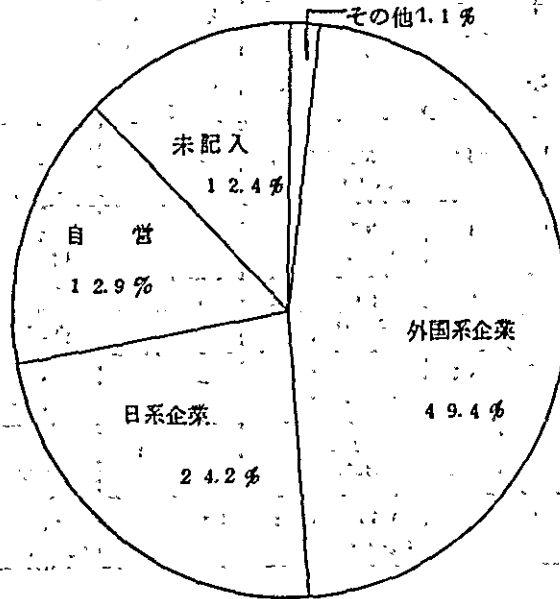
(前回調査)

区分	性別		男性		女性			総計
	未既婚別	未既婚別	未既婚別	未既婚別	未既婚別	未既婚別	未既婚別	
ア.\$500以下	12	19	31 (20.9)	3	3		6 (20.0)	37 (20.8)
イ.\$501~\$1,000	18	19	37 (24.9)	4	3		7 (23.4)	44 (24.7)
ウ.\$1,001~\$2,000	20	19	39 (26.4)	4	6		10 (33.3)	49 (27.5)
エ.\$2,000以上	5	34	39 (26.4)	4	2		6 (20.0)	45 (25.8)
未記入		2	2 (1.4)			1	1 (3.3)	3 (1.7)
合計	55	93	148 (100.0)	15	14	1	30 (100.0)	178 (100.0)

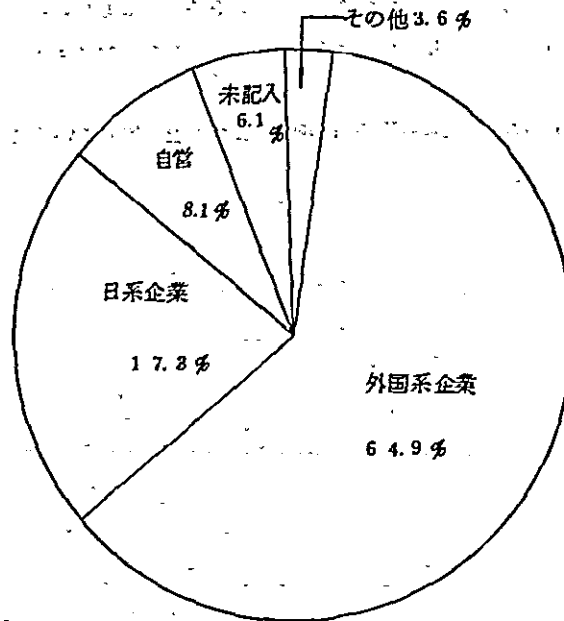
全体でみると携行金\$1,000以上が70%。性別では、男性の既婚者で\$1,000以上携行した者36.6%。男性の未婚者で\$1,000以上携行した者9.1%に対し、女性では26.7%と差異がある外は特に目立った違いはない。

前回の調査と比べると、\$1,000を境に、これ以下の率が減り、これ以上が増えていることが明確であり、携行金が増す傾向にある。

4 現在の勤務先について（在加年数、性別）



(総合)



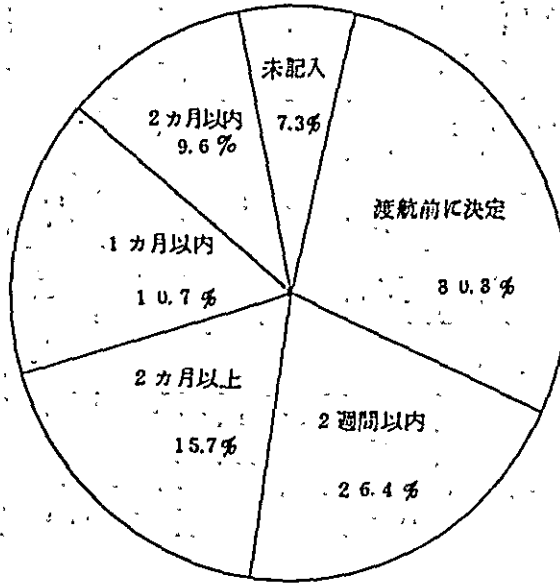
(前回調査)

区分	性別 在加年数	男 性						女 性						総計	
		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満		未記入
ア.外国系企業	25	14	14	16	10	2	81 (54.7)	2		2	2	1		7 (23.8)	88 (49.4)
イ.日系企業	2	1	13	12	4	1	33 (22.8)		2	2	2	3	1	10 (83.8)	48 (24.2)
ウ.自 営	3	4	6	6	1	1	21 (14.2)		1	1				2 (6.7)	23 (12.9)
エ.そ の 他								2						2 (6.7)	2 (1.1)
未 記 入	1	1	2	4	5		13 (8.8)	1	1	1	3	2	1	9 (30.0)	22 (12.4)
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

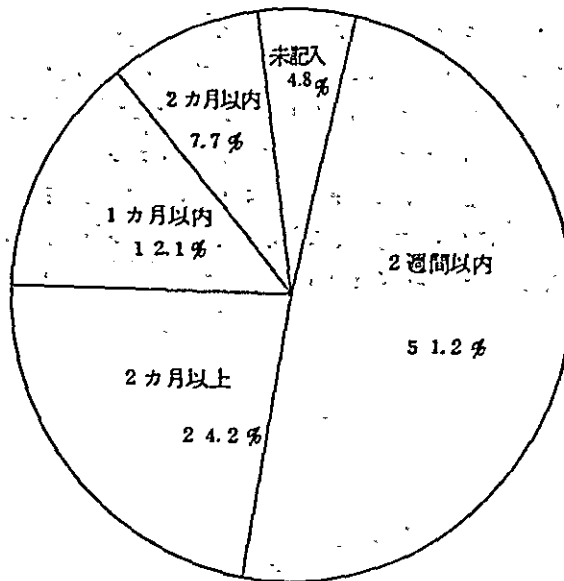
オンタリオ州の日系企業数は外国系企業に比べ著しく少ないにもかかわらず、外国系企業に勤めている者が全体の49.4%と、意外に少ない。特に女性では、未記入者が30%いるにしても、日系企業勤務の方が外国系企業勤務者よりも多いことは、意外の感がある。5年以上在加する者の70%が外国系に勤めており、在加年数が長くなるほど外国系に多く勤める傾向にある。自営者が12.9%あるが、日本に比べ、独立しやすいカナダの経済情勢がうかがわれる。

前回の調査と比べると、外国系企業勤務者が、64.9%から49.4%に減っているのが、最も顕著に出てきた。理由は不明であるが、日本からの進出企業が増えたことやアンケート回収率の減少と関係があると思われる。自営者が、8.1%から12.9%、実数にして20から23に増加したことは、喜ばしいことである。

5 カナダで最初の仕事につくまでどの位かかりましたか (職業、性別)



(総合)



(前回調査)

区分	性別		男 性						女 性						総 計
	職業別	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入	計	
7. 渡航前に決定		10	9	11	13	3	2	48 (32.5)	4			2		6 (20.0)	54 (30.3)
イ. 2週間以内		4	7	17	7	4	1	40 (27.0)	6		1			7 (23.4)	47 (26.4)
ウ. 1カ月以内				10	3	2		15 (10.1)	2		1		1	4 (13.3)	19 (10.7)
エ. 2カ月以内			3	8	2	1		14 (9.5)	1	1		1		3 (10.0)	17 (9.6)
オ. 2カ月以上		1	4	13		2	3	23 (15.5)	1	1		3		5 (16.7)	28 (15.7)
未 記 入			1		1	6		8 (5.4)		1		4		5 (16.6)	13 (7.3)
合 計		15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)

※ 職業欄の番号は11頁の職業分類と次のとおり一致する。

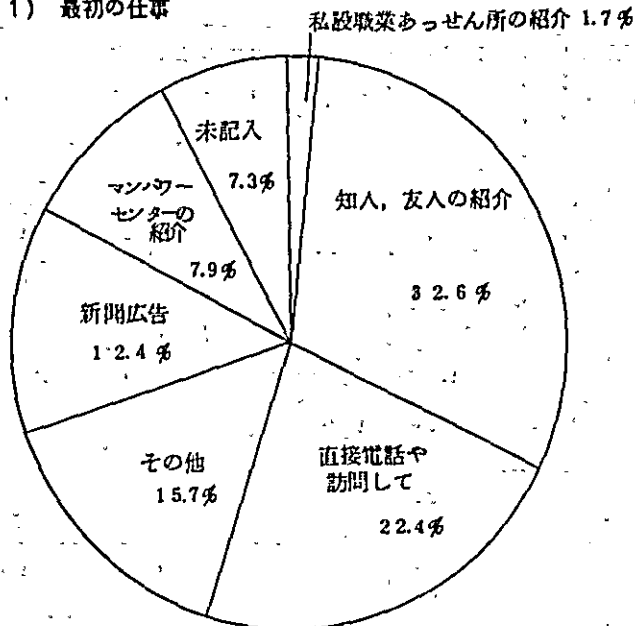
1-1, 2-2, 3-3,4, 4-5, 5-6。

渡航前に決定していた者が、30.3%と最も多い。1カ月以内に就職が決定した者が37.1%であるが、未記入者、渡航前決定者を除く、アン spons ード方式と思われる者の割合では、約60%である。しかしながら、2カ月以上要した者が、16.3%と比較的多いことも十分考えておく必要がある。性別の比較では、男性の方が女性より渡航前に就職が決定している率が高く、女性では2カ月以上要した率が若干多い。職業別では、農・林・漁業従事者の66.7%、サービス業の46.4%が渡航前に決定している。渡航前決定者を除く比較では、1カ月以内決定者の職業別で、農業、サービス業、事務系に次いで、専門・技術系となっている。事務、サービス系が、専門・技術系より早く決まる傾向があることは、多少意外な感があるが、アンケート回答者がオンタリオ州の実勢と異なる面があるとも考えられるし、事務系、サービス系従事者の方が、日本での審査が厳しく、就職が決まりやすい者が移住しているとも考えられる。

前回との比較では、アンケート自体に若干の違いがあり、今回の調査では2週間以内と渡航前決定と二つのカテゴリーに分けたため、この部分での比較はできないが、渡航前決定を含む2週間以内決定者では、今回の方が5%強多い。それ以外では大きな違いは見られない。

6 仕事はどの様にして見つけれましたか (職業, 性別)

(1) 最初の仕事



(総合)

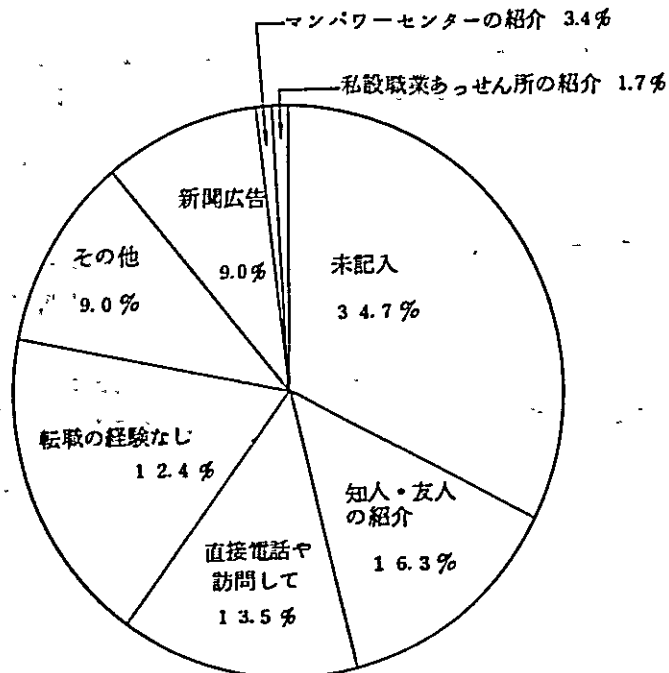
職業別 区分	性別 男							性別 女					未記入	計	総計
	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入			
ア. マンパワーセンターの紹介		2	8	1	2		13 (8.8)	1					1 (3.3)	14 (7.9)	
イ. 新聞広告	1	6	7		3	1	18 (12.2)	4					4 (13.3)	22 (12.4)	
ウ. 直接電話や訪問して	2	4	17	7	3	1	34 (23.0)	3	1		2		6 (20.0)	40 (22.4)	
エ. 知人・友人の紹介	9	7	18	10	2	1	47 (31.7)	4	1	2	3	1	11 (36.7)	58 (32.6)	
オ. 私設職業あっせん所の紹介			1			1	3 (2.0)							3 (1.7)	
カ. その他	3	4	8	7	2	1	25 (16.9)	3					3 (10.0)	28 (15.7)	
未記入			1	1	5	1	8 (5.4)				5		5 (16.7)	13 (7.3)	
合計	15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)	

知人、友人の紹介が最も多く、電話・訪問、新聞広告、マンパワーの順となっている。

マンパワーの紹介が7.9%と低いことは、マンパワーよりも、知人等のコネや直接会社を訪ねる方が求職手段として一般的であることを示している。性別では特記するほどの違いはない。職種別では、知人、友人の紹介が決まったケースが農業で最も多く、次いでサービス系、専門・技術系、事務系の順となっている。電話や訪問は専門・技術系、サービス系、事務系の順である。マンパワーセンターの紹介は、専門・技術系が最も多い。

今回は前回と異なり、質問を最初の仕事と現在の仕事に分けたため単純な比較はできないが、前回の調査では「マンパワーセンターの紹介」16.7%、「新聞広告」13.2%「直接電話や訪問して」16.4%、「知人、友人の紹介」28.6%、「私設職業あっせん所の紹介」4.1%、「その他」18.2%、「未記入」2.8%であり、マンパワーの紹介が減っているのが目につく。

(2) 現在の仕事



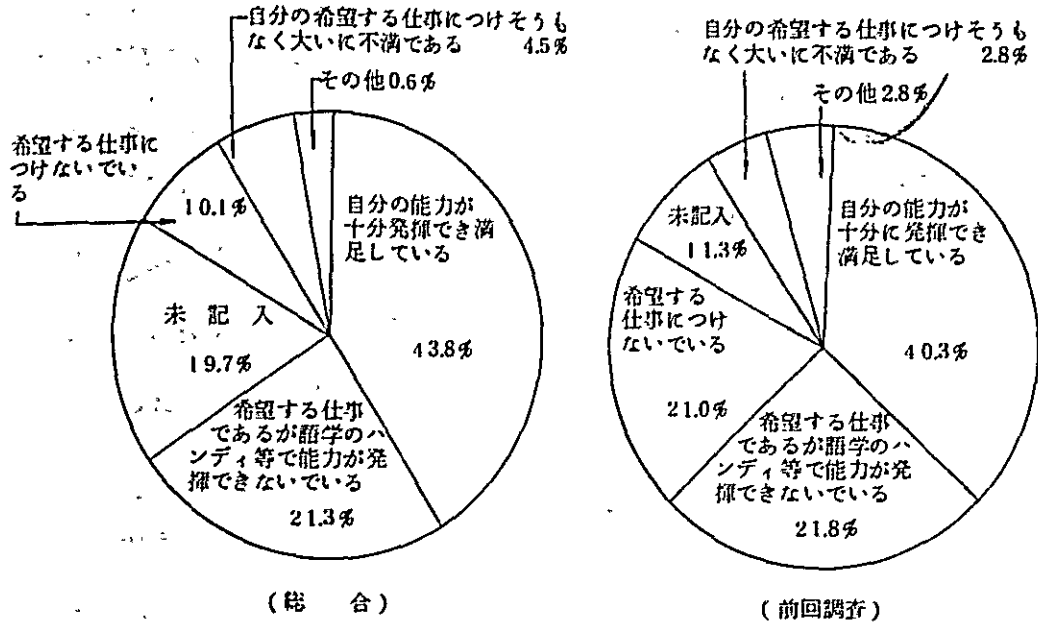
(総合)

区分	性別		男 性					女 性					総計	
	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
マンパワーセンターの紹介		1	1			1	3 (2.0)	1	1			1	3 (10.0)	6 (3.4)
新聞広告		4	5			2	12 (8.1)	4					4 (13.4)	16 (9.0)
直接電話や訪問して	5	2	13	2			22 (14.9)	1	1				2 (6.7)	24 (13.5)
知人、友人の紹介	2	4	14	7	1		28 (18.9)			1			1 (3.8)	29 (16.3)
私設職業あっせん所の紹介					1	1	2 (1.4)	1					1 (3.8)	3 (1.7)
その他	3	4	1	6	1	1	16 (10.8)							16 (9.0)
転職経験なし	2	3	4	7	2		18 (12.1)	4					4 (13.3)	22 (12.4)
未記入	3	6	21	4	10	3	47 (31.8)	3	1	1	9	1	15 (50.0)	62 (34.7)
合計	15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)

10表のとおり転職したことの無い者34.3%と多く、6-(1)最初の仕事の項で既して回答済みとなっているため、未記入者が最も多いが、知人、友人の紹介、電話・訪問、新聞広告、マンパワーと、6-(1)と順序が変わっていない。

結局、求職活動において知人、友人の存在が最も必要となっている。海外移住研究会やトレーニング・コースへの参加により積極的に人間関係の巾を広げていく必要がある。

7 現在の仕事に満足しておられますか(職業・性別)



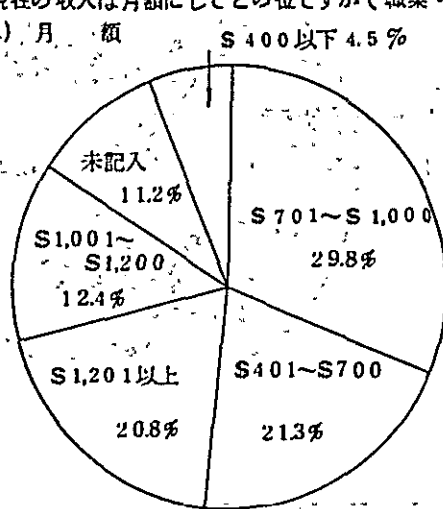
区 分	職 業 別	男 性							女 性					総 計	
		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア.	自分の能力が十分発揮でき満足している	7	11	34	11	4	4	71 (48.0)	3	1		2	1	7 (23.3)	78 (43.8)
イ.	希望する仕事であるが語学のハンディ等で能力が発揮できないでいる	5	8	12	5	1	2	33 (22.3)	4			1		5 (16.7)	38 (21.3)
ウ.	希望する仕事につけないでいる	1	1	7	2			11 (7.4)	3	1	2	1		7 (23.4)	18 (10.1)
エ.	自分の希望する仕事につけそうもなく大いに不満である		1	3	1	2		7 (4.7)		1				1 (3.3)	8 (4.5)
ホ.	その他				1			1 (0.7)							1 (0.6)
	未 記 入	2	3	3	6	11		25 (16.9)	4			6		10 (33.3)	35 (19.7)
	合 計	15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)

在加年数によっても若干差異が出てくるものと思われるが、希望する仕事に就いている者が65.1%を占めており、そのうち満足している者が43.8%、語学のハンディ等で能力が発揮できない者が21.3%となっている。性別では、希望する仕事に就いている者が男性で70.3%と高いのに、女性では40.0%と差がある。職業別では目立った差異はない。

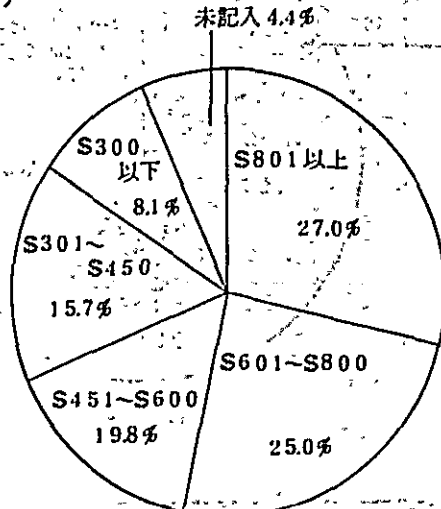
前回との比較では「希望する仕事に就いていない」または「就けそうもない」人が約9%減り、それだけ未記入者が増えている。

8 現在の収入は月額にしてどの位ですか(職業・性別)

(1) 月 額



(総合)



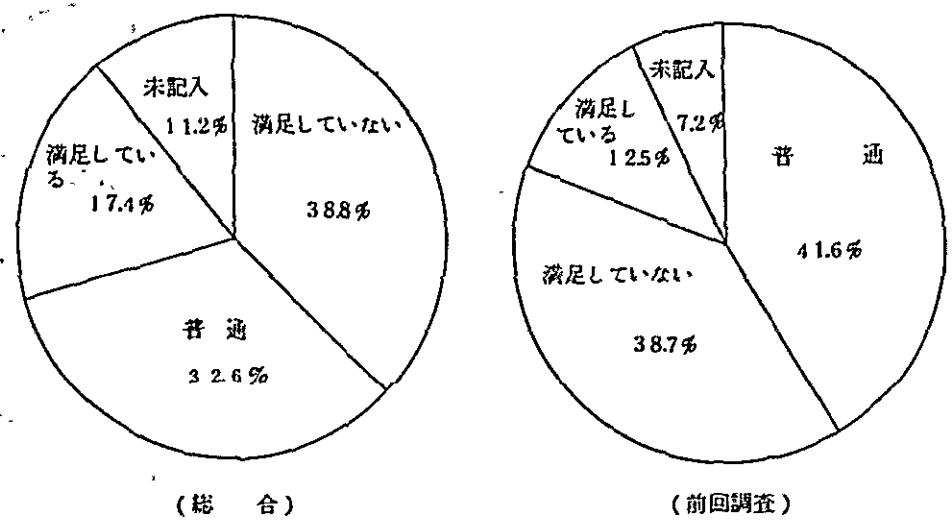
(前回調査)

区分	職業別	性別						未記入	計	性別						未記入	計	総計									
		男			女					男			女														
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5													
ア	S400以下	1		1	3				3							3	5	(3.4)							3	8	(4.5)
イ	S401~S700	5	9	5	4	2	1		26	9	2				1	12	26	(17.6)						1	12	38	(21.3)
ウ	S701~S1,000	2	8	20	11	3	3		47	4		2				6	47	(31.7)							6	53	(29.8)
エ	S1,001~S1,200	2	2	15	2		1		22								22	(14.9)								22	(12.4)
オ	S1,201以上	3	5	18	7	1	1		35		1			1		2	35	(23.6)						1	2	37	(20.8)
カ	未記入	2		1	1	9			13	1				6		7	13	(8.8)						6	7	20	(11.2)
合計		15	24	59	26	18	6		148	14	3	2	10	1	30	148	(100.0)							1	30	178	(100.0)

月収\$701以上が、未記入者を除く比率で70.8%を占めている。性別では、未記入者を除く4分の1の男性が\$1,201以上の月収がある。女性では未記入者を除く半数強が\$401~\$700となっている。アンケート回答者の年齢分布では女性の方が備かながら若いためもあるが、月収が低い。職業別の未記入者を除く月収\$701以上の比率では、専門・技術系が最も高く(88.3%)、次いでサービス系、農業、事務系の順となっている。

今回の調査では、物価および賃金の上昇を考慮し、月収のカテゴリーに変化をもたせたため単純な比較はできないが、前回では\$801以上が27.0%に対し、今回調査では\$701以上が70.8%、\$1,000以上が33.2%という調査結果から、明らかに月収が上がっていると見られる。

(2) 現在の収入に満足していますか(職業・性別)

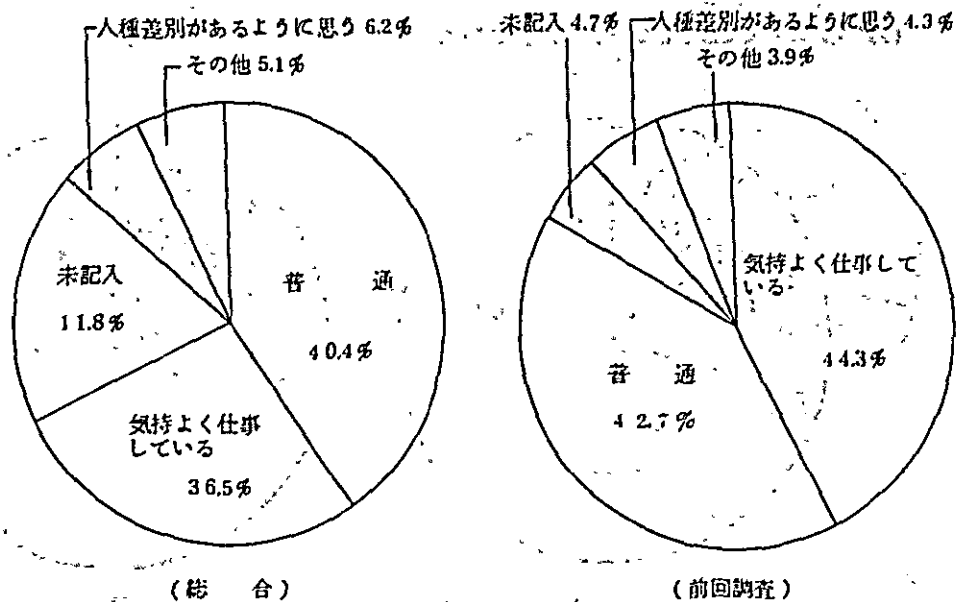


区分	職業別	男性						女性						総計	
		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア.	満足している	3	6	11	5		2	27 (18.2)	1	1		2		4 (13.3)	31 (17.4)
イ.	普通	6	6	24	8	5	1	50 (33.8)	7				1	8 (26.7)	58 (32.6)
ウ.	満足していない	4	11	24	13	4	3	59 (39.9)	5	2	2	1		10 (33.3)	69 (38.8)
	未記入	2	1				9	12 (8.1)	1				7	8 (26.7)	20 (11.2)
	合計	15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)

「普通」以上の者50.0%、「満足していない」38.8%。性別では著しい差異はみられない。「満足していない」者の未記入者を除く割合では、サービス系が53.6%で半数以上、次いで事務系44.4%となっている。語学力のウエイトが高い職種の者に不満が多く、技術力でカバーできる職種の者の方が不満の者がやや少ない傾向にある。不満の者の比率が高いが、語学等のハンディキャップもあって止むを得ないと考えているようである。転職回数が少ないことがこれを示している。

前回との比較においては、満足している者の比重がやや増えており、これ以外に目立った特徴はない。

9. 職場での人間関係はいかがですか（性別）



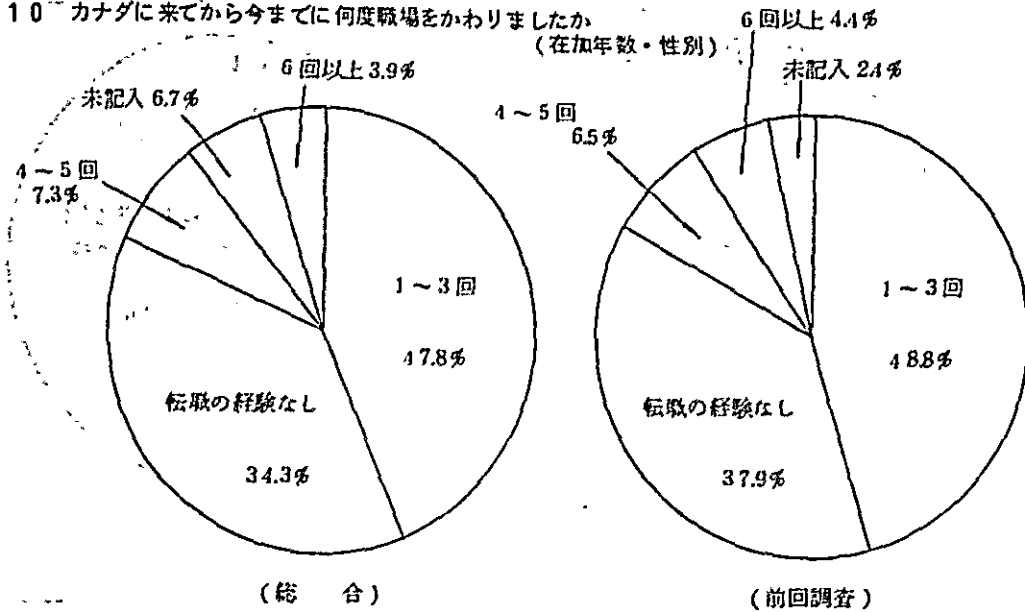
区 分	性 別		女 性		総 計
	男 性	女 性	人 数	%	
ア. 気持よく仕事している	55	10	65	(36.5)	65 (36.5)
イ. 普通	61	11	72	(41.2)	72 (40.4)
ウ. 人種差別があるように思う	11	0	11	(6.2)	11 (6.2)
エ. その他	7	2	9	(4.7)	9 (5.1)
未 記 入	14	7	21	(9.5)	21 (11.8)
合 計	148	30	178	(1000)	178 (1000)

「普通」以上の人が76.9%であり、人間関係等にあまりトラブルもなく、気持よく仕事をしているようだ。

人種差別を感じる者が6.2%いるが、女性には一人もなく、交際範囲や結婚観からも女性の側には気持よくして隔たりのないことがわかる。

前回調査と比べ「気持ちよく仕事をしている」者の割合がやや減り、未記入者が多少増したが、特に大きな違いはない。

10 カナダに来てから今までに何度職場をかわりましたか
(在加年数・性別)

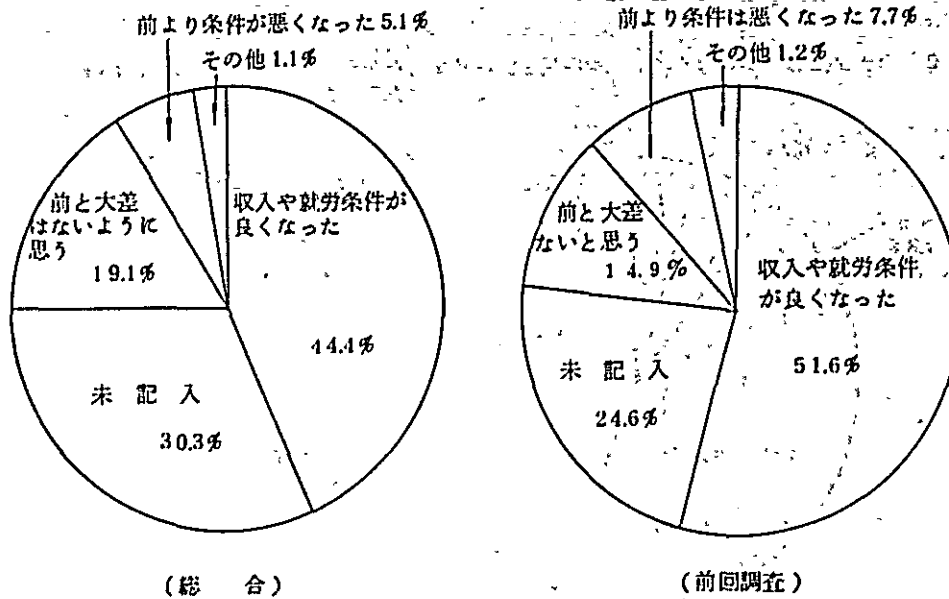


在加年数 区分	男 性							女 性							総 計
	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	
ア. 転職の経験なし	7	6	14	14	8	3	52 (35.1)	2	3	1	3		9 (30.0)	61 (34.3)	
イ. 1~3回	17	11	19	20	6		73 (49.4)	3	1	2	3	1	2	12 (10.0)	85 (47.8)
ウ. 4~5回	4	2	2	2	1		11 (7.4)	1	1					2 (6.7)	13 (7.3)
エ. 6回以上	2	1		1		1	5 (3.4)	1		1				2 (6.7)	7 (3.9)
オ. 未記入	1			1	5		7 (4.7)				3	2		5 (16.8)	12 (6.7)
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

転職の回数は「1~3回」が最も多く、次いで「0回」が多い。性別では、特に差はない。在加年数別では、当然ながら、在加年数が長くなると転職経験者が多いが、7年以上いても、転職したことのない者が約20%いることも知っておく必要がある。

前回の調査との比較でも特に差はない。

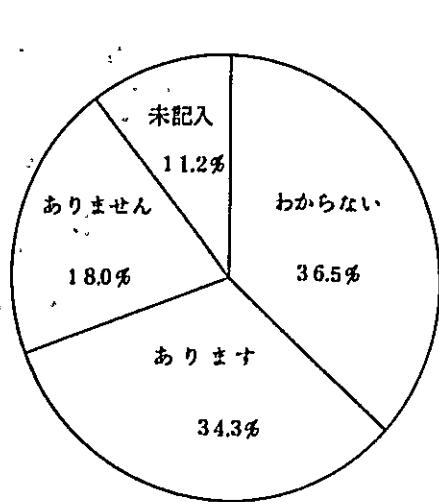
11 現在の仕事につかれた時、前の仕事と比べていかがでしたか（職業・性別）



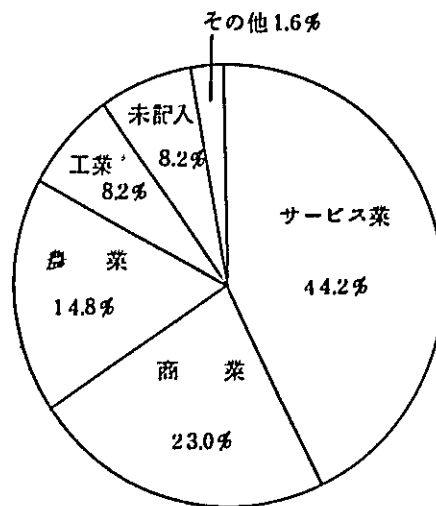
区分	職業別	男性						女性						総計	
		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア.	収入や就労条件が良くなった	11	12	26	11	4	4	68 (45.9)	6	1	1	2	1	11 (36.7)	79 (44.4)
イ.	前と大差はないと思う		5	13	7	3		28 (18.9)	3	1	1	1		6 (20.0)	34 (19.1)
ウ.	前より条件が悪くなった		2	5	1			8 (5.4)	1					1 (3.3)	9 (5.1)
エ.	その他				1			1 (0.7)	1					1 (3.3)	2 (1.1)
オ.	未記入	4	5	15	6	11	2	43 (29.1)	3	1		7		11 (36.7)	54 (30.3)
合計		15	24	59	26	18	6	148 (100.0)	14	3	2	10	1	30 (100.0)	178 (100.0)

未記入者が30.3%と多いが、前表の転職の経験のない者(34.3%)が記入しなかったようである。全体的に見ると、「良くなった者」が44.4%と最も多く、「前と大差ない」、「前より悪くなった」と続いている。性別では男性の方が女性より良くなったと答えた者がやや多い。職業別では、専門・技術系、事務系の1.0%の人が前より悪くなったとしているので、転職には充分調査する必要がある。前回との調査の比較では良くなった者の比重がやや減ったことに気づく。

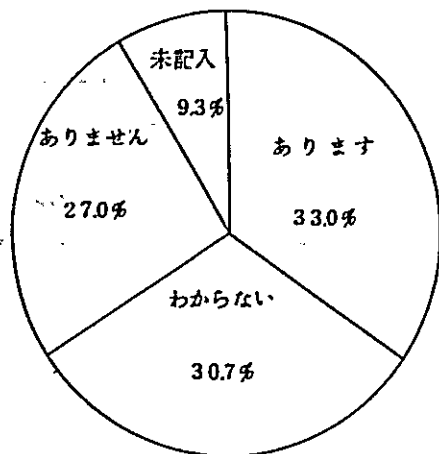
12 将来独立の計画はありますか(在加年数・性別)



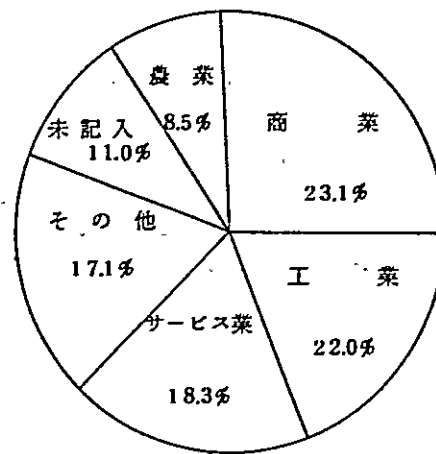
(総合)



(業について)



(前回調査)



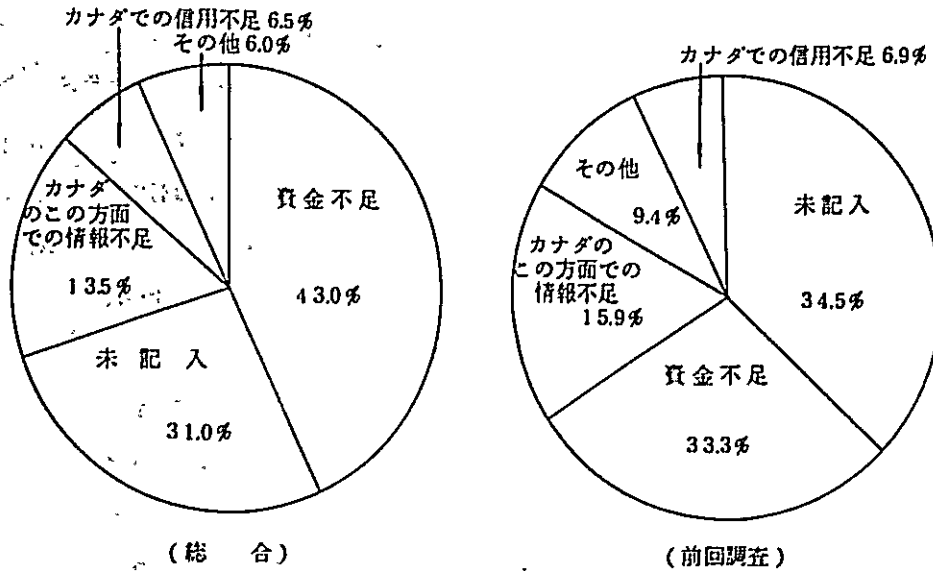
(業について)

区分	性別 在加年数	男 性						計	女 性						計	総 計
		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入		
ア. あります	16	3	14	14	7	2	56 (37.8)	1		1	1	2		5 (16.7)	61 (34.3)	
a. 農 業	1	2	3	2	1		9 (16.1)								9 (14.8)	
b. 工 業	1	1	1	2			5 (8.9)								5 (8.2)	
c. 商 業	6		2	3			11 (19.6)	1		1		1		3 (60.0)	14 (23.0)	
d. サービス業	8		5	6	6	1	26 (46.5)				1			1 (20.0)	27 (44.2)	
e. その他						1	1 (1.8)								1 (1.6)	
f. 未 記 入			3	1			4 (7.1)					1		1 (20.0)	5 (8.2)	
イ. わからない	9	13	13	13	5	2	55 (37.2)	2	2	1	2	2	1	10 (33.3)	65 (36.5)	
ウ. ありません	2	2	5	9	3		21 (14.2)	2	2	3	3		1	11 (36.7)	32 (18.0)	
未 記 入	4	2	3	2	5		16 (10.8)			1	1	2		4 (13.3)	20 (11.2)	
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)	

独立を計画する者が34.3%、ない者が18.0%となっているが、女性の場合独立を計画する者16.7%、ない者36.7%と、やはり男性より少ない。職業では、サービス業が44.2%、商業が23.0%と多いのは、独立しやすい面があるからであろう。

前回調査との比較では、前回は独立計画なしが27.0%であったが、今回は18.0%と減っており、職業別ではサービス系が前回の2倍以上になったのに対し工業関係が前回22.0%から今回8.2%と極端に減っているのが目立つ。

13. 現在、独立するとして何が一番問題になりそうですか（職業・性別）



区分	性別 職業別	男 性							女 性					総 計	
		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア. 資金不足		10	12	33	16	4	3	78 (46.2)	3		2	2	1	8 (25.8)	86 (43.0)
イ. カナダでの信用不足		1	4	6	1	1		13 (7.7)							13 (6.5)
ウ. カナダのこの方面での情報不足		4	5	11	2	1	1	24 (14.2)	2	1				3 (9.7)	27 (13.5)
エ. その他		2	1	4	1			8 (4.7)	3			1		4 (12.9)	12 (6.0)
未 記 入		2	6	14	8	13	3	46 (27.2)	6	3		7		16 (51.6)	62 (31.0)
合 計		19	28	68	28	19	7	169 (100.0)	14	4	2	10	1	31 (100.0)	200 (100.0)

独立を志した場合、阻害要因と思われるものとして、資金不足が43.0%、次いで情報不足、信用不足の順となっている。資金不足を最も感じる職業別順位では、サービス系、専門・技術系、農業となっている。日本に比べ独立しやすいとはいえ、やはり独立するのは容易なことではない。

前回調査との比較では資金不足を問題にする者の率が高くなっている。

14. 今後カナダで取得したい資格、免許は何ですか

男 性

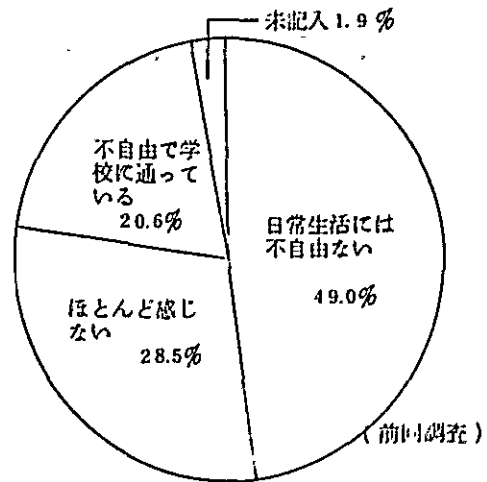
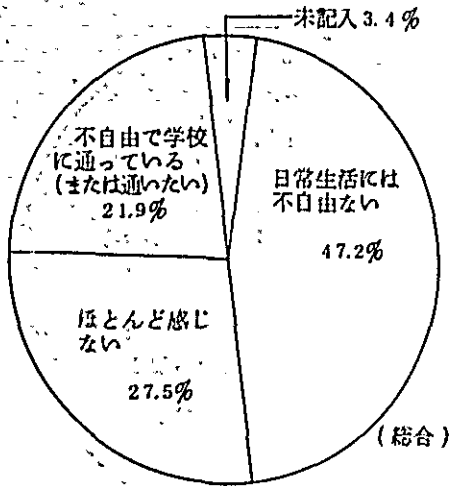
1. 計 理 士
2. ビジネススクール免状
3. マッサージ師
4. 会 計 士
5. 哲 学 博 士
6. ビデオテープ技術者
7. 工作機械技術者
8. プロフェッショナル・エンジニア
9. 英 語
10. 仏 語
11. 自動車整備
12. コンピュータ技術
13. 理 容 師
14. 航 空 士
15. 歯 科 医 師
16. テニス教師
17. 狩 猟 免 許
18. 酒 販 売
19. 運 転 免 許

女 性

1. ビジネススクール免状
2. 会 計 士
3. 心理または哲学士
4. ジャーナリズム関係の資格
5. カレッジ卒業免状
6. 英 語
7. 商 業 簿 記
8. 速記およびタイプ
9. テキスタル・デザイナー
10. 美 容 師
11. ダンス教師
12. キーパンチャー
13. 歯科衛生士
14. 運 転 免 許

女性の63.3%は何らかの資格・技術の取得を望んでいるにもかかわらず、男性の58.8%は無しと答えているのが目立つ。取得したい資格で圧倒的に多いのが男女とも大学の卒業資格である。

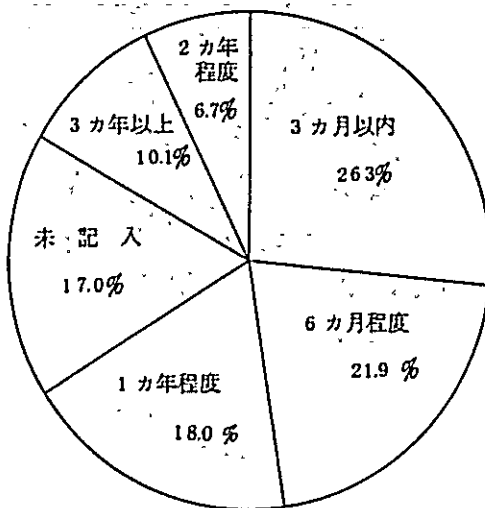
15. 生活で英語の不自由は感じますか（在加年数・性別）



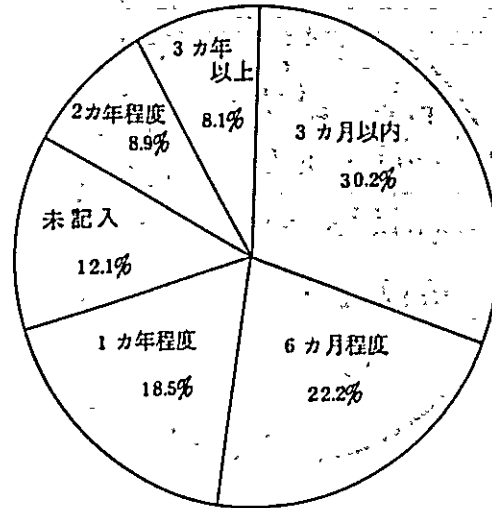
区 分	性 別		男 性						女 性						総 計		
	在 加 年 数		7 年 以上	5 年 /	3 年 /	1 年 /	1 年 未 満	未 記 入	計	7 年 以上	5 年 /	3 年 /	1 年 /	1 年 未 満		未 記 入	計
ほとんど感じない			17	10	7	4		2	40 (27.0)	3	1	1	2		2	9 (30.0)	49 (27.5)
日常生活には不自由ない			12	9	19	20	9	1	70 (47.3)	2	3	5	2	2		14 (46.6)	84 (47.2)
不自由で学校に通っている(または通いたい)			2	1	7	13	10	1	34 (23.0)				2	3		5 (16.7)	39 (21.9)
未 記 入					2	1	1		4 (2.7)				1	1		2 (6.7)	6 (3.4)
合 計			31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

全体でみると、「日常生活に不自由を感じない者」47.2%でトップ、次いで「ほとんど感じない」「不自由」と続いている。性別では「不自由と感じる者」が男性にやや多い。在加年数では、当然ながら年数の長いほど不自由を感じなくなっているが、5年以上たってもほとんど不自由を感じない者の率が、あまり高くないことは意外である。語学をマスターすることの難しさを改めて認識する必要がある。前回の調査と比較しても差はない。

16. 職場での英語に慣れるまで、どの位かかりましたか (職業・性別)



(総合)



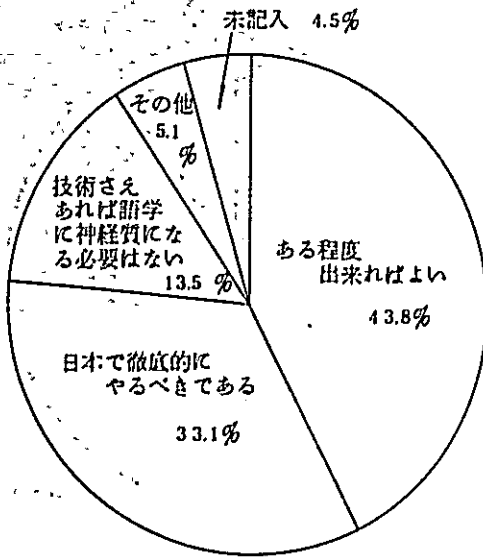
(前回調査)

職業別	男性							女性					合計	
	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア. 3ヶ月以内	2	6	13	9	4	2	36 (24.3)	7		2	1	1	11 (36.7)	47 (26.3)
イ. 6ヶ月程度	6	3	11	7	4	2	33 (22.3)	3	2		1		6 (20.0)	39 (21.9)
ウ. 1カ年程度	4	8	11	5	2		30 (20.3)	2					2 (6.7)	32 (18.0)
エ. 2カ年程度		1	8	1		1	11 (7.4)				1		1 (3.3)	12 (6.7)
オ. 3カ年以上	2	3	9	1	1	1	17 (11.5)					1	1 (3.3)	18 (10.1)
未記入	1	3	7	3	7		21 (14.2)	2	1		6		9 (30.0)	30 (17.0)
合計	15	24	59	26	18	6	148 (1000)	14	3	2	10	1	30 (1000)	178 (1000)

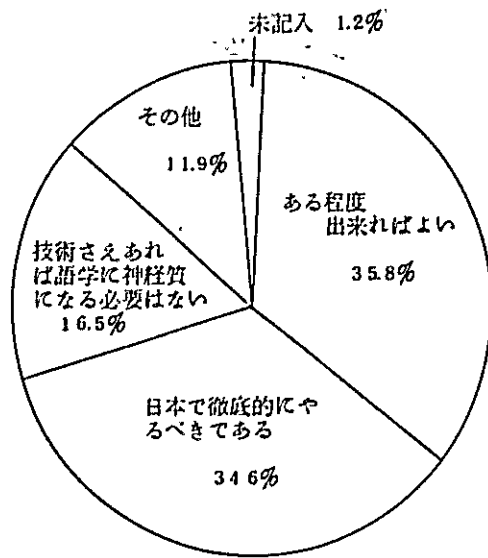
職場で英語に慣れるのに「半年以内」と答えたものが約半数、性別では、「3ヶ月以内」と答えた女性の率が未記入者を除く半数以上を占めている。

女性に事務系、サービス系の職業が多く、これら職種では語学力が特に必要であるところから、日本国内で相当マスターして来たものと思われる。日本での十分な勉強が重要であることを示している。職業別でみると、「6ヶ月以内」と答えた者の比率ではサービス系、事務系がそれぞれ1位、2位である。前回調査との比較では3ヶ月以内の比率がやや多い。

17. 移住する場合の英語力についてどう考えられますか。(職業・性別)



(総合)



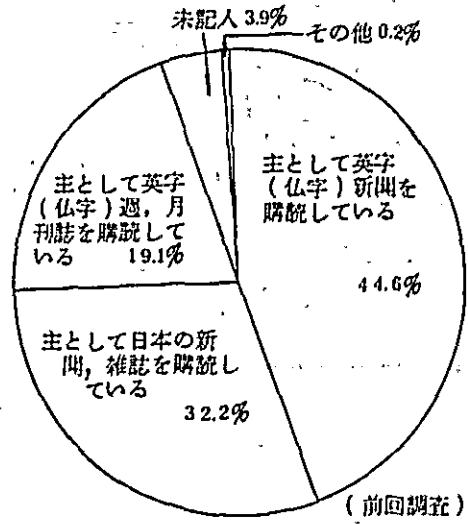
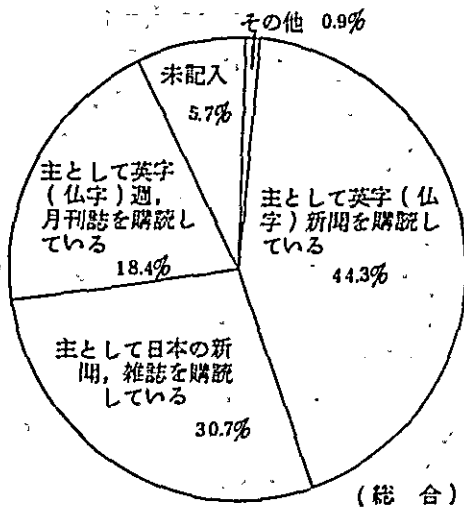
(前回調査)

職業別	男性							女性					合計	
	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5	未記入		計
ア. 日本で徹底的にやるべきである	4	12	13	10	9	3	51 (34.5)	4	1		2	1	8 (26.7)	59 (33.1)
イ. ある程度出来ればよい	5	7	32	11	7		62 (41.8)	6	2	2	6		16 (53.3)	78 (43.8)
ウ. 技術さえあれば語学に神経質になる必要はない	3	3	8	5	1	1	21 (14.2)	1			2		3 (10.0)	24 (13.5)
エ. その他	3	1	3			1	8 (5.4)	1					1 (3.3)	9 (5.1)
未記入		1	3		1	1	6 (4.1)	2					2 (6.7)	8 (4.5)
合計	15	24	59	26	18	6	148 (1000)	14	3	2	10	1	30 (1000)	178 (1000)

「渡航前に英語はある程度できればよい」と考える者が最も多く、「日本で徹底的にやるべき」、「技術さえあれば語学に神経質になる必要なし」と答えている。性別ではある程度でよいと考えるのは、専門・技術系の男性に多く、女性では事務系に多い。「日本で徹底的にやるべき」と答えた者の職業別は、トップが事務系で、サービス系、農業、専門・技術系の順である。専門・技術系の場合、技術でカバーできる部分もあり、他の職業に比べ低くなっているものと思われる。

前回の調査との比較ではある程度できればよいと言う者の比率が増えている以外、著しい差はない。個人により、職業により「ある程度」の度合は違ってくるが、一般的には語学の必要性を強く感じているようである。

18. 新聞、雑誌は何をお読みですか (在加年数・性別)

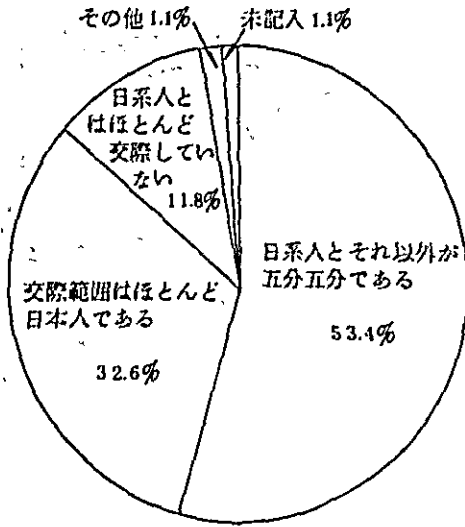


区 分	性 別		男 性					女 性					総 計				
	在 加 年 数		7 年 以 上	5 年	3 年	1 年	1 年 未 満	未 記 入	計	7 年 以 上	5 年	3 年		1 年	1 年 未 満	未 記 入	計
主として英字(仏字)新聞を購読している			21	13	17	17	10	2	80 (45.6)	4	2	3	3	1	1	14 (37.9)	94 (44.3)
主として英字(仏字)週、月刊誌を購読している			6	4	3	11	4	1	29 (16.6)	1	5	3	1			10 (27.0)	39 (18.4)
主として日本の新聞、雑誌を購読している			9	6	13	20	7	2	57 (32.6)		1	1	4	2		8 (21.6)	65 (30.7)
その他の			1		1				2 (1.2)								2 (0.9)
(未 記 入)			1	1	2		3		7 (4.0)	1				3	1	5 (13.5)	12 (5.7)
合 計			38	24	36	48	24	5	175 (100.0)	6	8	7	8	6	2	37 (100.0)	212 (100.0)

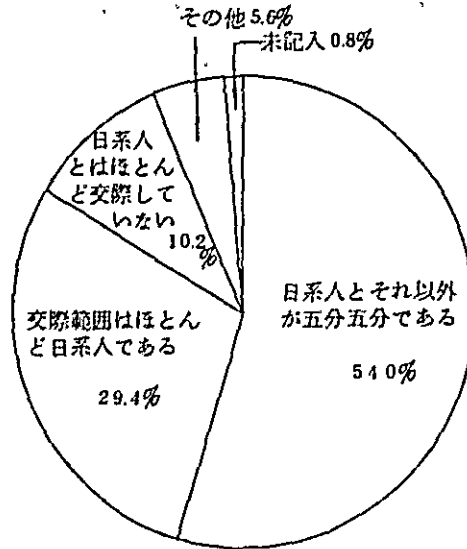
新聞、雑誌の違いはあっても、英字または仏字の発行物を読んでいる者の割合が、62.7%と多い。日本の新聞雑誌の購読者も30.7%と高率であるが英字紙と併読している者も多い。性別では女性の方が英字(仏字)の雑誌を購読する率が高く、日本の発行物を読む傾向が小さい。在加年数の長いほど英字(仏字)発行物の購読者が多い傾向にある。在加年数が高くなるに従って日本の新聞雑誌を読む率が少しずつ減っているのは日本離れの傾向にあるのであろうか。

前回調査との比較では大きな差異はない。

19. あなたの交際範囲について（在加年数・性別）



(総合)



(前回調査)

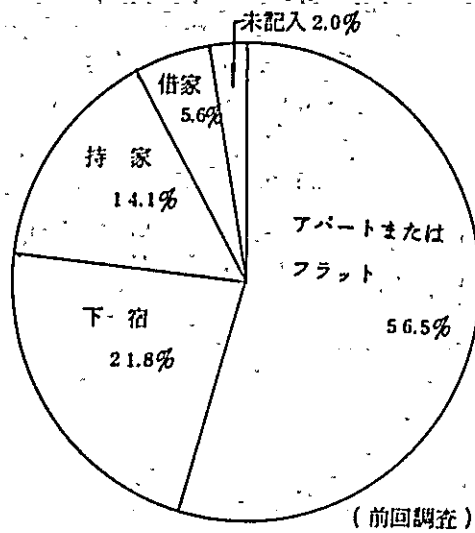
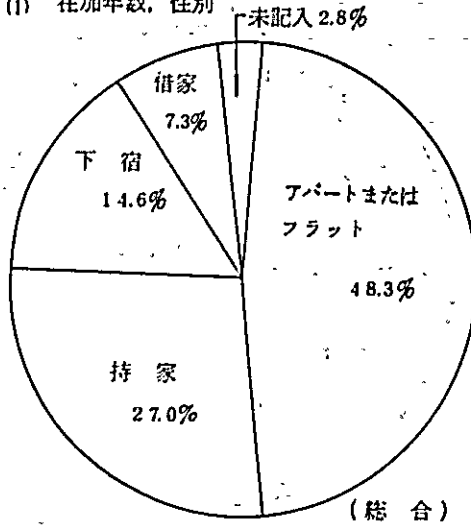
区 分	性 別							計	性 別							計	総 計
	男								女								
在 加 年 数	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入				
ア. 交際範囲はほとんど日本人である	6	6	16	13	9	2	52 (35.1)	2			2	2			6 (20.0)	58 (32.6)	
イ. 日系人とそれ以外が五分五分である	22	13	14	21	7	2	79 (53.4)	2	1	5	4	3	1		16 (53.4)	95 (53.4)	
ウ. 日系人とはほとんど交際していない	2	1	5	4	3		15 (10.1)	3	1	1			1		6 (20.0)	21 (11.8)	
エ. そ の 他	1						1 (0.7)					1			1 (3.3)	2 (1.1)	
未 記 入					1		1 (0.7)					1			1 (3.3)	2 (1.1)	
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (1000)	5	4	6	7	6	2	30 (1000)	178 (1000)		

交際は「日系人とそれ以外が五分五分」と答えた者が全体の半数強でトップ、次いで「ほとんど日本人」、「日系人とはほとんど交際しない」の順になっている。性別では、日系人とはほとんど交際しない女性が男性の2倍の割合となっているのが目につく。交際範囲がほとんど日本人と答えた者の比率では男性の方が多い。女性の方が順応性が高い、あるいは日系人以外の者と結婚した女性が多い等がその原因と思われる。在加年数では、1年未満の者の半数近くがほとんど日本人とだけ交際していると答えているところから、語学力の不足のためか、または人間関係に広がりがないものと思われる。

前回調査との比較では、大きな変化はない。

20. 現在の住いについてお聞かせ下さい

(1) 在加年数、性別



区分	性別		男性						女性						総計		
	在加年数		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満		未記入	計
ア. 持家			21	9	7	6	2	1	46 (31.1)	1					1	2 (6.7)	48 (27.0)
イ. 借家			4	3	2	1	1	1	12 (8.1)	1						1 (3.3)	13 (7.3)
ウ. アパートまたはフラット			4	6	19	26	8	2	65 (43.9)	3	3	5	7	3	1	22 (73.4)	87 (48.9)
エ. 下宿			2	1	6	4	8		21 (14.2)		1	1		2		4 (13.3)	25 (14.0)
オ. 未記入				1	1	1	1		4 (2.7)					1		1 (3.3)	5 (2.8)
合計			31	20	35	38	20	4	148 (100.0)	5	4	6	7	6	2	30 (100.0)	178 (100.0)

(2) 未・既婚別

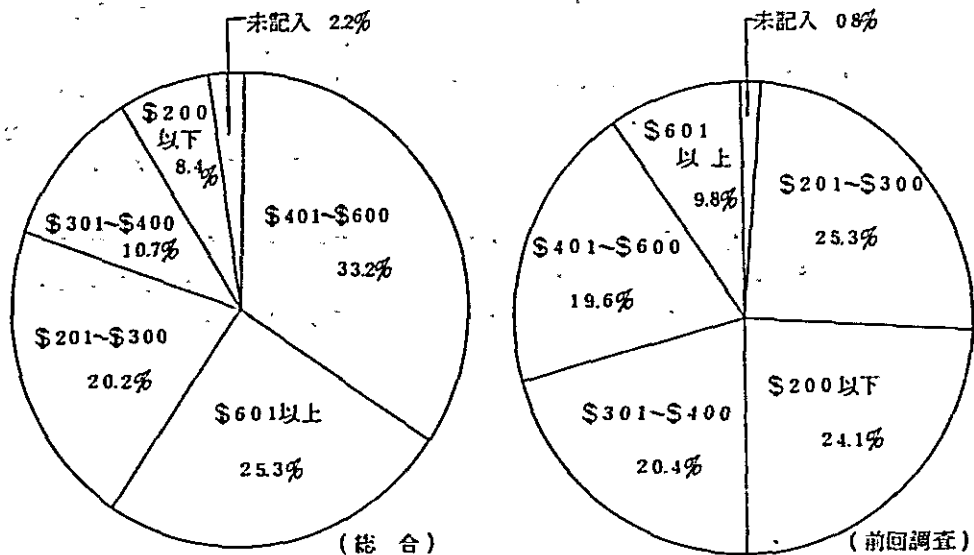
区分	未・既婚別	未 婚	既 婚	未記入	計
ア. 持 家		3 (4.3)	45 (42.1)		48 (27.0)
イ. 借 家		3 (4.3)	10 (9.3)		13 (7.3)
ウ. アパートまたはフラット		41 (58.6)	45 (42.1)	1	87 (48.9)
エ. 下 宿		22 (31.4)	3 (2.8)		25 (14.0)
未 記 入		1 (1.4)	4 (3.7)		5 (2.8)
合 計		70 (1000)	107 (1000)	1	178 (1000)

アパートまたはフラットに住んでいる者が48.9%でトップ、次いで持家、下宿、借家と続いている。性別では、男性の持家の比率が高く、女性は殆んどアパート住いである。在加年数5年を過ぎると持家者が急激に増すのを見ると、カナダで5年程度働くとマイホームも手に届く距離にあると言える。未既婚別では、既婚者の半数近くが持家に住み、未婚者では半数以上がアパートに住んでいる。

前回の調査から比べるとアパート住いの人がやや減ってき、持家者が増加し、持家と下宿の順が逆転していることがわかる。

持家の購入価格は\$30,000~\$50,000が最も多く、アパート、フラットの家賃は部屋数にもよるが平均的には、\$130/月~\$220/月となっている。

21. 1カ月の生活費はどの位かかりますか(未既婚・性別)



区分	性別		男性				女性				未、既婚別		
	未 婚	既 婚	未 婚	既 婚	未 記 入	計	未 婚	既 婚	未 記 入	計	未 婚	既 婚	未 記 入
ア. \$200以下	12	1	13(8.8)	1	1	2(6.7)	15(8.4)	13(18.6)	2(1.9)				
イ. \$201~\$300	19	13	32(21.6)	4		4(13.3)	36(20.2)	23(32.9)	13(12.1)				
ウ. \$301~\$400	8	5	13(8.8)	4	2	6(20.0)	19(10.7)	12(17.1)	7(6.5)				
エ. \$401~\$600	14	33	47(31.7)	6	5	12(40.0)	59(33.2)	20(28.6)	38(35.5)	1			
オ. \$601以上	1	40	41(27.7)		4	4(13.3)	45(25.3)	1(1.4)	44(41.2)				
未記入	1	1	2(1.4)		2	2(6.7)	4(2.2)	1(1.4)	3(2.8)				
小計	55	93	148 (100.0)	15	14	1	30 (100.0)	70 (100.0)	107 (100.0)	1			
合計	148			30			178 (100.0)	178					

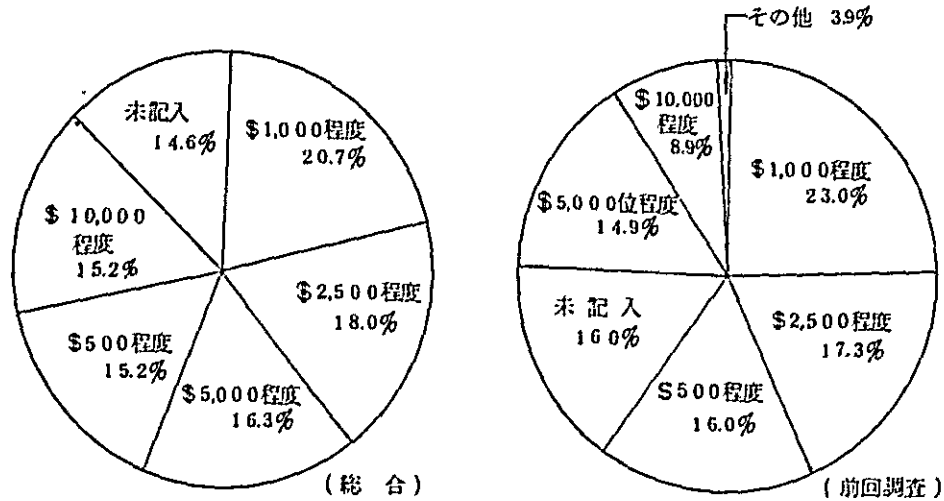
アンケート回答者の平均在加年数が4~5年と思われ、また収入に応じて生活費にも巾が生ずることを、先ず理解しておく必要がある。全体としてみると、1カ月の生活費として、\$401~\$600がトップで、\$601以上、\$201~\$300、\$301~\$400の順となっている。性別では、大きな違いが見られない。

未婚者の生活費では\$201~\$300が最も多く32.9%、次いで\$401~\$600であり、

\$200以下、\$301~\$400と続いているのは\$300以下(51.5%)と\$301~\$600(45.7%)の大きく二つのクラスがあると考えられる。これは収入の差によるものと考えられる。従って未婚者の生活費は各々の収入に応じ差はあるが、移住当初の生活費としては、一応1カ月\$200と考えれば良いであろう。既婚者の生活費は、扶養家族数によることはもち論であり正確な結論は出せないが、ここでは家族数を除外視すると、\$600以上が41.2%と最も多く、次いで\$401~600である。\$401以上の者は全体で76.7%を占めている。従って移住当初から他の既婚者と同様の生活をするためには、家族数にもよるが、1カ月の生活費\$600が一応の目安となろう。夫婦のみであれば、この数字が低くなることは当然である。

前回調査との比較では、\$300以下が約半数を占めていたが、今回半数以上を占めたのが、\$401以上の58.5%で、\$300以下は28.6%と比重が落ちている。前回のアンケート回答者の方が未婚者がやや多いため、一概には言えないが、3年前と比べかなり生活費の上昇がうかがわれる。

22. (1) 現在貯蓄はどの位おありですか(在加年数, 性別)

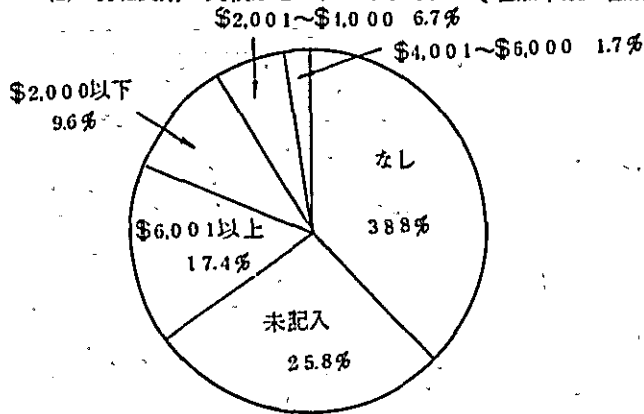


区分	性別 在加年数							計	性別 在加年数							計	総計
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	7年以上		5年	3年	1年	1年未満	未記入				
ア \$ 500程度	2	1	7	5	9	1	25(16.9)			1	1			2(6.7)	27(15.2)		
イ \$ 1,000程度	3	5	7	12	6	1	34(22.9)	1		2				3(10.0)	37(20.7)		
ウ \$ 2,500程度	6	4	5	9	1		25(16.9)		2	2	2	1		7(23.3)	32(18.0)		
エ \$ 5,000程度	9	4	1	3	3		26(17.6)	1			2			3(10.0)	29(16.3)		
オ \$ 10,000程度	8	3	5	3		2	21(14.2)	1	2		2		1	6(20.0)	27(15.2)		
未記入	3	3	4	6	1		17(11.5)	2		1		5	1	9(30.0)	26(14.6)		
合計	31	20	35	38	20	4	148(100.0)	5	4	6	7	6	2	30(100.0)	178(100.0)		

貯蓄面では、男性、女性の間には顕著な差はないが、強いて言えば女性の方が僅かに貯蓄額が多いようである。在加年数の多少にも余り関係がないようであり、\$ 5,000以上の貯蓄者には在加年数7年以上の者が比較的多いといった程度の差である。性別、在加年数別等に大きな変化がみられないのは、ある程度の貯蓄ができると、家屋購入、自動車購入、日本への一時帰国等に費したり、また余暇をエンジョイするカナダ流の生活の所因とも考えられる。

前回の調査では\$ 10,000程度の貯蓄のある者の比率が、8.9%から15.2%に増えたことが目につく程度で、外に大きな違いは見られない。

2.2 (2) 現在長期の負債はどの位おありですか (在加年数、性別)



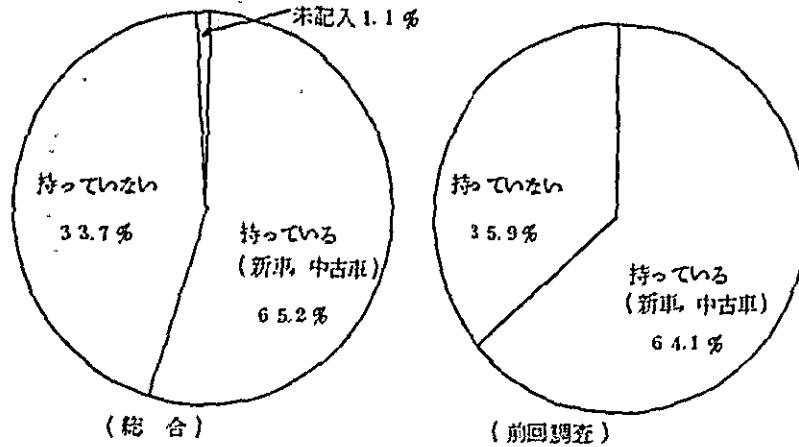
(総合)

区分	性別		男 性						女 性						総計		
	在加年数		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満		未記入	計
ア. なし			5	5	16	16	7	2	51 (345)	3	4	3	4	4		18 (600)	69 (388)
イ. \$2,000以下			3	1	4	5	1		14 (94)			2		1		3 (100)	17 (96)
ウ. \$2,001~\$4,000			2	3	2	3	1		11 (74)						1	1 (33)	12 (67)
エ. \$4,001~\$6,000			1			1			2 (14)	1						1 (33)	3 (17)
オ. \$6,001以上			13	7	7	3	1		31 (209)								31 (174)
未記入			7	4	6	10	10	2	39 (264)	1		1	3	1	1	7 (234)	46 (258)
合計			31	20	35	38	20	4	148 (1000)	5	4	6	7	6	2	30 (1000)	178 (1000)

立ち入った質問のため未記入者が4分の1強もあり、分析が正確を欠くことにもなるが、負債なしが、未記入者を除く比率で52.3%、次いで負債\$6,001以上が23.5%となる。性別では、女性のうち未記入者を除くと78.3%の者に負債がなく、男性では、\$6,001以上の負債がある者28.4%、負債のない者46.8%となっている。\$6,001以上の負債とは、持家者が殆んどであることから、家屋購入のためのものと思われる。従って、在加年数による差異も、5年以上の者に負債が多い。

なお、前回の調査では、負債調査はしていない。

2.3 自動車をお持ちですか (在加年数, 性別)



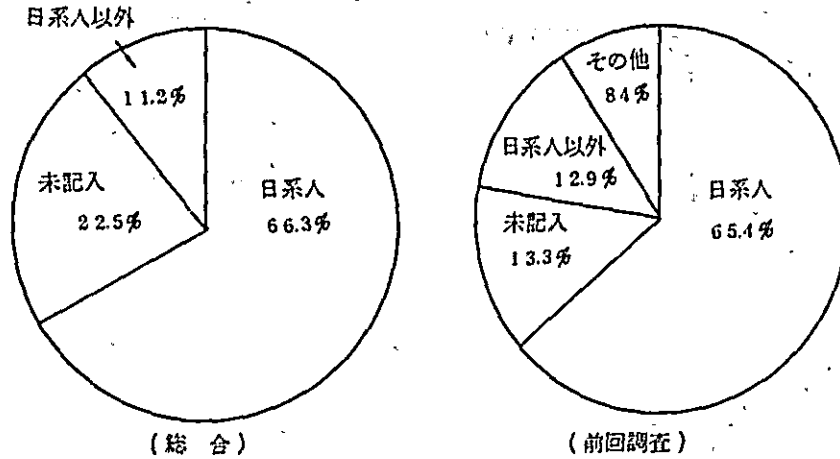
性別 在加年数 区分	男 性						女 性						総 計		
	7 年 以上	5 年 }	3 年 }	1 年 }	1 年 未 満	未 記 入	計	7 年 以上	5 年 }	3 年 }	1 年 }	1 年 未 満		未 記 入	計
ア. 持っている (新車, 中古車)	27	18	27	24	7	2	105 (709)	3	2	2	3	1		11 (367)	116 (652)
イ. 持っていない	4	2	8	14	12	2	42 (284)	2	2	4	4	4	2	18 (600)	60 (337)
ア. 持ちたい	1	1	3	11	12		28 (667)		1	1	1	4	1	8 (14.5)	36 (600)
イ. 持つ必要なし	1		4	3		1	9 (214)	1	1	1	1			4 (222)	13 (21.7)
ウ. 未記入	2	1	1			1	5 (119)	1		2	2		1	6 (33.3)	11 (18.3)
未記入						1	1 (0.9)					1		1 (3.3)	2 (1.1)
合 計	31	20	35	38	20	4	148 (1000)	5	4	6	7	6	2	30 (1000)	178 (1000)

新車, 中古車の別はともかく, 自動車を持っている者の比率が全体で65.2%, 男性だけでは70.9%, 男性で在加年数1年以上の者77.4%, 即ち男性で1年以上カナダで生活した者の4人に3人強は自動車を持っている。また, 男性で自動車をもちたいが持っていない者は, 在加年数3年未満に多く, 持っている者が持っていない者の数を追い越すのが, 1年~3年の在加年数者で起っているので, 自動車をもちたい者であれば3年を過ぎると殆んど100%自動車を持つことになる。女性も, この購入時期についての傾向には余り変化は見られないが, 持っている者の比率が, 男性の半分で36.7%であり, 日本の自動車所有の女性比率よりは, はるかに高いと思われる。

なお, 前回の調査と殆んど同じ数字となっている。

カナダでは自動車が生活必需品となっているので, 当然の傾向と言えよう。

2.4 結婚の相手には日系人を選びますか。(未既婚別、性別)



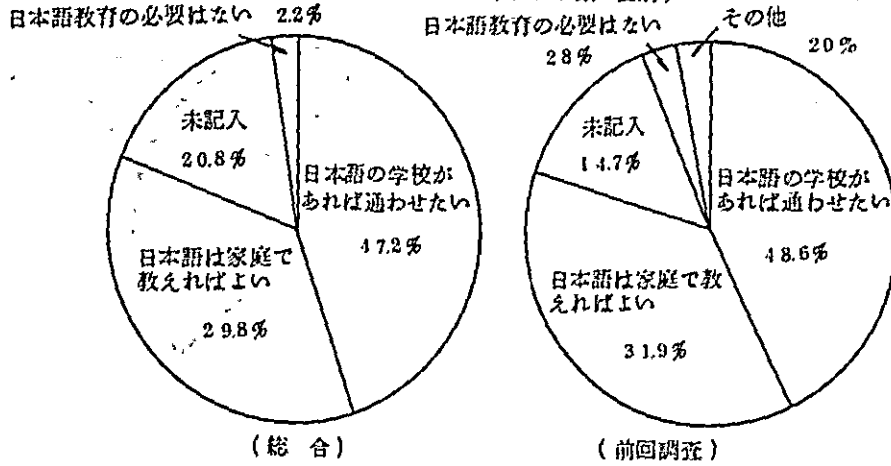
区分	性別		男性				女性				総計
	未既婚別	未既婚別	未婚	既婚	計	未婚	既婚	未記入	計		
7. 日系人			34	75	109 (73.6)	3	6		9 (30.0)	118 (66.3)	
a. 日本から呼ぶ			23	41	64 (58.7)	1			1 (11.1)	65 (55.1)	
b. 日系移住者			4	15	19 (17.4)	1	3		4 (4.45)	23 (19.5)	
c. 二世・三世			1	2	3 (2.8)	1	2		3 (33.3)	6 (5.1)	
d. 未記入			6	17	23 (21.1)		1		1 (11.1)	24 (20.3)	
8. 日系人以外			5	3	8 (5.5)	4	7	1	12 (40.0)	20 (11.2)	
未記入			16	15	31 (20.9)	8	1		9 (30.0)	40 (22.5)	
合計			55	93	148 (100.0)	15	14	1	30 (100.0)	178 (100.0)	

男性の未婚者の結婚観は、未記入者を除く割合で、87.2%と圧倒的に日系人を希望している。男性の既婚者の96.2%も日系人と結婚しているところから、日本人男性にとって、日系人以外の女性は将来の伴侶としては選び難いようである。理由としては種々考えられるが、食生活、風俗習慣等根本的な違いあるいはコミュニケーションの困難等が主な原因と思われる。南米の日本人移住者にも同様な傾向がある。

女性では未婚者、既婚者を問わず、ほぼ半数の者が日系人を選び、他の半数が日系人以外を選ぶとしている点に、男性との大きな違いがある。女性は男性よりも順応性が強いからと考えられる。女性移住者が少なく、加えて女性移住者の半数が日系人以外の人を選ぶ傾向にあるからか、未婚の男性の殆んどが、結婚相手は日本から呼寄せたいとしている。

なお、前回の調査も、ほぼ同じ結果である。

25 子供の日本語教育についてのお考えは (在加年数 性別)

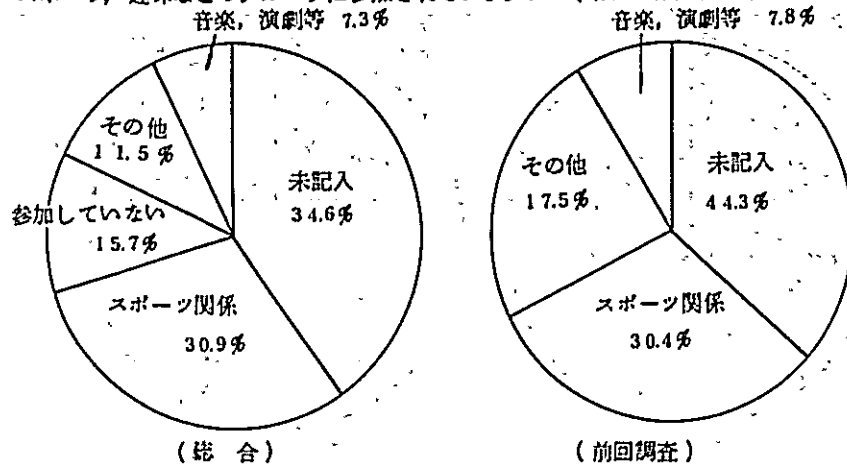


区分	性別 男							性別 女							総計
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	
7. 日本語教育の必要はない			1	1	1	1	4 (27)								4 (22)
4. 日本語は家庭で教えればよい	6	5	15	10	1		40 (270)	2	1	5	4	1		13 (133)	53 (298)
2. 日本語の学校があれば通わせたい	23	12	11	18	9	1	74 (500)	1	3		3	2	1	10 (334)	84 (472)
未記入	2	3	8	9	6	2	30 (203)	2		1		3	1	7 (233)	37 (208)
合計	31	20	35	38	20	4	148 (1000)	5	4	6	7	6	2	30 (1000)	178 (1000)

ほぼ半数が、「日本語の学校があれば通わせたい」意見であり、「日本語教育の必要はない」という意見は22%である。本来この回答の分析は、子供を持った者のみについて集計した方が、よりの確な内容となるが、大筋においては変わらないと思われる。性別では、調査回答者は圧倒的に男性が多いため、全体の傾向は男性と同じであるが、女性のみをとらえると、「日本語は家庭で教えればよい」という者が、日本語学校に通わせたい者よりやや多く、ここにも女性と男性との考え方の顕著な差が見られる。在加年数別でみると、日本語学校に通わせたい者が、家庭教育でよいとする者を追い越すのは、5年が境になっているが、これは在加年数の問題ではなく、既婚者の割合の問題であるとも思える。

前回の調査でも大きな差異は見られない。

26 スポーツ、趣味などのグループに参加されていますか。(在加年数、性別)



在加年数 区分	性別 男						計	性別 女						総計
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	
ア. スポーツ関係	10	11	13	16	5		55 (35.1)	1	1	1		1	4 (11.8)	59 (30.9)
イ. 音楽、演劇等	1	1	3	5	1		11 (7.0)	1				1	3 (8.8)	14 (7.3)
ウ. その他	3	2	2	6	2	1	16 (10.2)	3	2			1	6 (17.6)	22 (11.5)
エ. 参加していない	4	1	7	6	3	2	23 (14.6)	1	1	2	1	2	7 (20.6)	30 (15.7)
未記入	14	6	11	10	9	2	52 (33.1)		1	3	6	3	14 (41.2)	66 (34.6)
合計	32	21	36	43	20	5	157 (100.0)	6	5	6	4	8	34 (100.0)	191 (100.0)

何らかのグループに属している者が49.7%であるが、同一人が幾つか回答している事例もあるので実数は低くなる。未記入の者の殆んどはグループに属していないと思われるので、参加していない者の推定値は約半数となる。

スポーツは、ゴルフ、テニス、野球、スキー、ガン、ボーリングあるいは柔道、剣道、空手等の武道が多い。その他では宗教関係のグループ、「ひろば」グループ、陶芸、木彫等であった。

性別では、スポーツ関係グループ参加者が女性に少ないこと以外きわだった差はない。

前回の調査と差がない点からすると、少なくともこの点に限っては、オンタリオ州在住日本人移住者の特有の傾向と言える。

IV 調査結果の考察

1 移住の動機

移住の動機については、千差万別であり、記述方式によった。幾つかの要素が互いに影響し合った複雑な人間心理のなかから生れたものであろうから、簡単な記述で表現しきれものではないが、記述されたもののみから推測する限りでは従来から試みられているAグループ(あこがれ型)、Bグループ(目的志向型)、Cグループ(脱出型)に大別できる。もち論AとB、BとC等どちらにも属するものもあるが、一応の区分は可能である。

移住の動機と現在の心境については、前回の調査結果の考察と重複するのでここでは割愛する。

2 カナダ人に対する印象と移住希望者へのアドバイス

(1) カナダ人に対する印象

カナダ人を「あたたか味」があると思う者が最も多く、あっさりし、真面目で、合理的で、行動力があるとする人がある反面、志が低く、のんびり、おろちかた、人生をエンジョイする平凡なお人好しという国民性も指摘している。カナダ人に対し、人種差別をもち、ズルサ、チャッカリヤ、積極性が少なく、自己の権利のみを主張し、教育レベルが低いと、余り好感を抱いていない者もいる。

アンケート回答者の移住希望者へのアドバイスとして、日本で良き市民であった者はカナダでも良き市民であると述べているが、上述のとおりカナダ人も人間である以上個々一人一人をとらえれば、日本人と際立った違いがあるはずもなく、ただ、前回の考察でも指摘したように、純朴な要素がまだ多く残され、のんびりと友好的で、進学競争が激しくないため教育水準も日本と比べれば低くなる。

日本での長い生活体験と知らず知らずのうちに分かちがたく身につけてしまった日本人としての思考方法が、異質の思考方法、精神風土と接して、言葉のハンディとともにコミュニケーションを困難なものにしていることを強く感じる。こうしてことが、良きにしる、悪きにしる画一的な誤解を生んでいるとも思われる。

次項のアドバイスで指摘されているように或る程度の異質性は認識しながらも、これを無視し積極的に受け込む努力が最も望まれるところである。

(2) 後輩へのアドバイス

アンケートを読み終って、「日本はいい国」と考える、即ち日本を離れても、日本を愛する人々からの、これから移住しようとする日本の後輩への好意のこもったアドバイスばかりであったことが強く感じられた。

自己のあるいは他者の苦い体験から生れたもの等、貴重な意見が多く、本稿ではここに大きなクエイトをおくこととする。

最も多かったのは(半数近くの者)、前回と同様、「言葉」と「技術」であった。“語学”に関しては、「日本国内で徹底的にマスター」から、「HEARING の力」あるいは「会話の基本」、「余り神経質になる必要はないが……」に至るまで多種多様であった。やはり可能な限り語学力の向上は必要であろう。技術については、日本で自信のない者ならカナダでも同じ、カナダに貢献するのは自己の技術、技術さえあればどうにでもやっていける等、多くのアドバイスがあった。技術程度は、日本や米国の方が上とする若干の意見もあったが、一般的には、生活の向上のためにはもちろん、日本人としてのプライドのためにも、自分の専門に関してはより高い知識、技術を有する

必要がある。移住の動機の中であこがれ型の者が多かったが、後輩へのアドバイスで音楽、技術に次いで、「確固たる目標と信念」をあげる者が多かった。自己の体験あるいは、あこがれ型の人が多く帰国するのを目にしたからであろう。ただ漠然と行きたい、行けばなんとかなる式の移住希望者が多いことを嘆いているようである。移住するということは困難と辛苦の連続だから忍耐と根性が必要とする意見も多い。自主性、自主独立の精神、良識のある社会人、積極的で社交的であることが必要であるという意見は、独立した人格として個性を持ち、かつ社会人として協調的ということであり、近代社会の一員として恥かしくない人間という一語につきる。日本でよき市民であった者ならカナダの良き市民となる意見がこれを代表している。これ以外で目についたことは、カナダの事情、現実を疑いのない目で、ただ良い国という希望的観測に偏することなく、事前に十分調査研究して来ることという意見であった。この意見の延長としては、渡航前に就職先を決めておくこと、あるいは一度移住前に自分の目でカナダを見ることなどがあつた。経費を無視できれば、これなども一方法であろうが旅行者の目と生活者の目とは違いがあることも考慮しておく必要がある。年齢が比較的若く、順応性のあるうちに、それでもできれば妻帯してという意見は、移住を考える上でも具体的で示唆に富むものである。家族の場合、家族の一人でも移住に積極的にないと、帰国する例が多いことも指摘している。就職決定まで長期間を要するため、あるいは腰を据えて語学を習得するため十分な資金を持ってくることという意見もある。早く移住したいだけの焦りに対する戒めでもある。これらの他、必身の強健さ、永住する積りで渡航すること、人種差別など気にしないことなども、傾聴すべきである。一寸気のつかない意見として日本の文化について勉強しておけとアドバイスする者もあつたが、日本文化に興味と関心を持つ者から質問を受け、意外に答えられないケースが多いことも知っておく必要がある。仏教、禅など時として外国人の方が詳しく、何も知らないことに気がつくケースもある。

これら全て（中には相反する意見もあるが）を兼ね備えることは、現実には困難であろうし、例えば積極性、社交性など性格的なものは、本人が努力しても変えることが難しいものもある。しかしながら、より高い技術と語学、移住する目的、信念と努力、何ものにも耐える忍耐力、一個の完成された社会人等々、渡航することのみが移住ではなく、カナダでの生活こそが移住であることを噛みしめ、事前に十二分に準備、努力することが必要であろう。

3 他州との比較

数字的には付表を参照願いたい。

- (1) 移住して良かったと述べている者の率では、B・C州と平原三州の者がオンタリオ、ケベックの両州より多い。
- (2) 永住の意志では、B・C州が最も多い。わからないという意見が多いのは、オンタリオ州とケベック州である。
- (3) 現在の仕事に満足しているか、まずまずと答える者は、ケベック州が最も多く、B・C州に少ない。
- (4) 収入に満足しているか普通と答えた者は、ケベック州に多く、B・C州、オンタリオ州に少ない。
- (5) 人間関係が普通かそれ以上と考える者は、ケベック州で最も多く、オンタリオ州に少ない。
- (6) 現在の勤務先が外国系である者は、ケベック州が最も多く、平原三州も日系人の農場に働く者を除けばオンタリオ、B・C両州よりも多くなる。
- (7) 持家の比率は、アンケート回答者の未既婚別で大きく変るが、総合の数字のみでは、B・C州が最も高い。
- (8) 自動車保有率が最も高いのは、平原三州移住者で、交通機関として自動車に依存せざるを得ない

実情から当然と言える。

(9) 結婚の相手で日系人以外と答えた比率は、ケベック州が最も多い。外国系企業勤務者が多いこと、日系人が比較的少ないこと、英語系が少なく仏語系が多いことなどがその原因と思われる。

上記(1)ないし(5)からみる限りでは、B・C州とケベック州在住者では、前者は移住して良かったという実感から永住希望者が多いが、現状にはやゝ不満があると考える者も多いのに反し、後者では仕事にも、収入にも、人間関係にもまずまずと考えているにもかかわらず、永住するか否か問われると、まだ決めかねている人が多い。B・C州在住者は、同地の特殊性—即ち日本とは海一つ隔てているに過ぎないという距離感や、気候風土が日本と同じ感じが強く、定住し易い面もあるであろう。

一方、オンタリオ州では、トロント市という大都会に住む者が多く、日本のそれよりも密集度が低いとはいえ、大都会特有の社会環境やここに住む人々の都会性が、他州在住者に比べ、一般的に慎重に、客観的に場合によっては批判的にさせるのではないだろうか。

(付表)

カナダ各州移住者アンケート集計の比較

項目	州別	オンタリオ州 移住者	ケベック州 移住者	平原三州 移住者	B・C州 移住者
1. カナダに移住して					
よかつた		52.8%	55.6%	70.4%	70.6%
普通		18.0	29.6	16.0	13.3
まだわからない		27.0	14.8	12.0	15.2
失敗		1.1	0	1.6	0.9
未記入		1.1	0	0	0
2. 永住の意志					
帰化する		20.8	25.9	39.2	40.0
帰化せず永住する		14.0	16.7	6.4	15.6
わからない		50.6	48.1	37.6	35.5
永住の意志はない		12.9	9.3	15.2	8.1
未記入		1.7	0	1.6	0.8
3. 仕事関係					
A. 現在の勤務先					
外国系企業		49.4	79.6	50.4	53.6
日系企業		24.2	1.8	22.4	21.3
自営		12.9	7.4	4.0	12.8
その他		1.1	1.8	10.4	8.1
未記入		12.4	9.4	12.8	4.2
B. 職場での英語の慣れ					
3カ月以内		26.3	29.6	39.2	44.1
6カ月程度		21.9	18.5	20.8	17.1
1カ年程度		18.0	20.4	20.8	15.2
2カ年程度		6.7	11.1	3.2	5.2
3カ年以上		10.1	9.3	4.0	8.1
未記入		17.0	11.1	12.0	10.3

項目	州 別	オントリオ州 移住者	ケベック州 移住者	平原三州 移住者	B・C州 移住者
C. カナダで最初の仕事につくまでの期間					
2週間以内		56.7%	57.4%	71.2%	60.0%
1カ月以内		10.7	14.8	5.6	11.4
2カ月以内		9.6	1.9	1.6	6.6
2カ月以上		16.3	18.5	6.4	16.1
未記入		6.7	7.4	15.2	6.2
D 現在の仕事に					
十分満足		43.8	57.4	52.0	44.5
希望する仕事である		21.3	20.4	16.0	16.2
希望する仕事でない		10.1	3.7	11.2	18.0
不満足		4.5	0	0.8	5.2
その他		0.6	5.6	5.6	3.3
未記入		19.7	12.9	14.4	12.8
E 現在の収入は					
満足		17.4	14.8	18.4	18.0
普通		32.6	51.8	46.4	40.0
不満足		38.8	24.1	24.0	31.0
未記入		11.2	9.3	11.2	11.0
F 職場での人間関係					
良い		36.5	59.3	33.6	41.0
普通		40.4	31.5	51.2	39.3
人種差別を感じる		6.2	3.6	0	4.7
その他		5.1	0	4.8	5.0
未記入		11.8	5.6	10.4	10.0
G 転職回数					
なし		34.3	46.3	39.2	29.4
1～3		47.8	38.9	43.2	54.0
4～5		7.3	5.6	11.2	7.6
6以上		3.9	3.6	1.6	2.8
未記入		6.7	5.6	4.8	6.2

項目 \ 州別	オンタリオ州 移住者	ケベック州 移住者	平原三州 移住者	B・C州 移住者
4 生活状態				
A 現在の住宅				
持家	27.0%	14.8%	24.8%	34.1%
借家	7.3	5.5	20.8	8.1
アパートまたはフラット	48.3	77.8	32.0	46.4
下宿	14.6	1.9	16.0	10.4
未記入	2.8	0	6.4	1.0
B 生活費				
\$200以下	8.4	7.4	23.2	17.1
\$201~\$300	20.2	12.9	24.0	22.3
\$301~\$400	10.7	9.3	20.8	23.7
\$401~\$600	33.2	57.4	18.4	24.2
\$601以上	25.3	11.1	12.0	11.4
未記入	2.2	1.9	1.6	1.3
C 自動車				
持っている	65.2	68.5	89.6	75.4
持っていない	33.7	31.5	10.4	24.6
未記入	1.1	0	0	0
5 結婚の相手				
日系人	66.3	35.2	64.8	73.0
日系人以外	11.2	29.7	12.8	10.4
未記入	22.5	35.1	22.4	16.6
6 子供の日本語教育				
日本語教育の必要ない	2.2	1.9	4.0	2.8
家庭で教えればよい	29.8	25.9	33.6	25.0
日語学校に通わせる	47.2	55.6	52.0	61.3
その他	0	0	0.8	0.5
未記入	20.8	16.6	9.6	10.4

4 前回調査との比較

アンケート回答者の傾向に大きな差がないため、結果的に大差のない事項が多い。永住希望、転職の度合い、英語に対する慣れ、新聞雑誌購読傾向、交際範囲、自動車保有率、結婚相手、日語教育に対する考え方、グループ参加状況等がこれであり、私生活の考え方の面で変わりなく、これがオンタリオ在住者の生活感覚だと言っても過言ではないと思われる。

生活の向上あるいは物価上昇という点からは、渡航時携行金増加傾向、月収増加、持家率の増大、生活費の上昇、貯蓄額の増加等に明らかである。

カナダ移住した感想、永住意志、独立計画に「わからない」という回答が増えたのは、慎重派が増えたとも見えるし、最近の経済状況を反映して、先の見通しを楽観視してはいけないという自戒もある。独立希望の有無で工業関係が減ったことも、カナダ国の経済情勢の悪化という要素が一時的に影響していると思われる。

前回と比較し、殆どどの項目に亘り未記入者の率が多くなったこと、および質問11、13、16、24、25、26等の未記入者が前回、今回とも多く、本動態調査のあり方に再検討を加える必要がある。抽象的質問、簡単には答えられない質問、回答者に身近でない質問等を除く未記入者の率が1～5%と低いことからこのことが伺われる。

V 結 び

当事業団がカナダ移住の取扱いを始めてから約11年の年月が過ぎようとしている。1962年の移民法施行規則の改正、1966年の移民白書以後ヒューマニズムを基調とし、人種差別と数的制限を撤廃し、全世界からカナダの必要とする分野の有能な移住者を何人でも受け入れようとする移住政策が敷かれた。しかしその後、アジア、アフリカ、中南米諸国からの移住者の増大に伴う人口構成の変化、移住者の激増、大都市集中傾向等の問題が生じ、現行の移住政策を根本的に再検討するため、1975年2月移住録書が出され、国民各層、各分野で討議がなされており、いずれ何らかの法改正がなされることになる。

アンスポンサード方式を中心としたカナダ移住も1974年の移民法施行規則の改正により若干の修正がなされ、トロントでは、積極的活動を続けていた「新移住者の会」も発展的解消をとげ、日本人のカナダ移住もこの11年の間に少しづつ変質してきていることは否めない。

しかしながら、この調査からも判るとおり、日本人移住者がかなりのハンディキャップを背負いながらも、それぞれに真剣にそして誇りをもって仕事に生活に取り組み、カナダ社会の一員として融和していく努力がなされていることは心強い限りである。

本調査結果よりオンタリオ州の概要をまとめてみると20才代が5.4%で、既婚者・未婚者の比率は3:2、前回は1:1であったので既婚者がやゝ増加している。男女の比率は約5:1、前回はアンケート回答比率で約4:1であった。学歴別では大卒者がやゝ増え約4.8%、高卒者もやゝ増え3.7%となっている。在加年数では5年以上が約3分の1で3年未満が4.1%で前回よりやゝ減っている。

回答者の70%以上の方がカナダに移住したことを悔いてはいないが、未だ評価を差し控える者が多く、他州では80%以上となっていることを勘案すると、やゝ残念な感がある。永住希望の有無も態度未定の者が多く、永住希望者約3.5%は他州の4.3~4.6%に比し少ない。

職業についてみると、前回は工業関係が多かった。今日も男性については同様であるが、女性も含めると工業関係と事務系がほぼ同じ比率になっている。

収入については70%以上の方が月収\$700程度で前回は大巾に上回っている。自動車保有率では前回より約1%増したにすぎないが、自分の家をもっている者の割合も、貯蓄額も増えている。

カナダ移住者の動態調査も日本人移住者の多いオンタリオ州、B・C州、ケベック州、平原三州で実施し、今回は再度オンタリオ州において前回と比較し易いよう同様のアンケート用紙により実施したが、Ⅳの4でも述べたとおりアンケート方法に関し種々検討を加えた上で、今後も更に実施してゆく予定である。

最後に、このアンケートに当事業団への要望欄を設けたところ、様々な点の指摘があった。本稿に特別には掲載しなかったが、要望のあったものは可能なものから順に解決に努力する所存である。

(参考)

カナダ移住者動態調査票

調査年月日	年 月 日			
氏 名			男・女	既婚・未婚
生年月日	年 月 日	入国年月日	年 月	
住 所	TEL			
現在の職種			日本での職種	
最終学歴	大学・短大・高校・中学・その他		卒業・中退	
出身県		国 籍		
家族構成	(渡航時家族員数 名)			
氏 名	年 令	性 別	統 柄	職 業
		男・女	本 人	
		男・女		
		男・女		
		男・女		
		男・女		
		男・女		

(本調査票のご記入について)

1. 本調査は日本人移住者の皆様がカナダ社会に適応してゆかれる過程で直面された問題や現在皆様がかかえておられる問題等を把握し、これからの移住政策に反映させることを目的に行なうものであります。なお、前回ご記入願った皆様には、たびたびで恐縮ですが、その後の変化も把握したいと存じますのでご協力下さい。
2. プライベートに立ち入りすぎる設問もあるかと存じますが秘密は厳守致します。どうしてもお名前をお聞かせ願えない場合も、男女別、入国年月日、職種、学歴、未既婚別の欄は御記入下さる様お願い致します。
3. アンケートには該当するものに○をおつけ下さい。
又、記述していただく場合は簡潔にお答え下さい。
4. ご多忙中まことに恐縮ですが宜しくご協力お願いします。

国際協力事業団

アンケート

1. カナダに移住して来てよかったと思いますか。
 - ア. よかったと思う
 - イ. 普通
 - ウ. まだわからない
 - エ. 失敗であった

2. カナダに永住する希望がありますか。
 - ア. 帰化して永住する
 - イ. 帰化せずに永住する
 - ウ. わからない
 - エ. 永住の意志はない

3. 渡航時の携行金はどの位でしたか。
 - ア. \$ 500 以下
 - イ. \$ 501 ~ \$ 1,000
 - ウ. \$ 1,001 ~ \$ 2,000
 - エ. \$ 2,001 以上

4. 現在の勤務先について
 - ア. 外国系企業
 - イ. 日系企業
 - ウ. 自 営

5. カナダで最初の仕事につくまでどの位かかりましたか。
 - ア. 渡航前に決定していた
 - イ. 2週間以内
 - ウ. 1カ月以内
 - エ. 2カ月以内
 - オ. 2カ月以上

6. 仕事はどの様にして見つけられましたか。
 - ア. Manpower Center の紹介
 - イ. 新聞広告
 - ウ. 直接電話や訪問して
 - エ. 知人・友人の紹介
 - オ. 私設職業あっせん所の紹介
 - カ. その他

最初の仕事
(ア. イ. ウ. エ. オ. カ)
現在の仕事
(ア. イ. ウ. エ. オ. カ)

7. 現在の仕事に満足しておられますか。
- ア. 自分の能力が充分に発揮出来満足している
 - イ. 希望する仕事であるが語学のハンディ等で能力が発揮出来ないでいる
 - ウ. 希望する仕事につけないでいる
 - エ. 自分の希望する仕事につけそうになく大いに不満である
8. 現在の収入は月額にしてどの位ですか。
- (1)
- ア. \$ 400 以下
 - イ. \$ 401 ~ \$ 700
 - ウ. \$ 701 ~ \$ 1,000
 - エ. \$ 1,001 ~ \$ 1,200
 - オ. \$ 1,201 以上
- (2)
- ア. 満足している
 - イ. 普通
 - ウ. 満足していない
9. 職場での人間関係はいかがですか。
- ア. 気持よく仕事をしている
 - イ. 普通である
 - ウ. 人種差別があるように思う
 - エ. その他 ()
10. カナダに来てから今までに何度職場をかわりましたか。
- ア. 転職の経験はない
 - イ. 1 ~ 3 回
 - ウ. 4 ~ 5 回
 - エ. 6 回以上
11. 現在の仕事につかれたとき、前の仕事と比べいかがでしたか。
- ア. 収入や就労条件がよくなった
 - イ. 前と大差はないように思う
 - ウ. 前より条件が悪くなった
12. 将来、独立の計画はありますか。
- ア. あります
- | | | 具体的業種名 |
|----|-------|--------|
| a. | 農 業 | () |
| b. | 工 業 | () |
| c. | 商 業 | () |
| d. | サービス業 | () |
| イ. | わからない | () |
| ウ. | ありません | () |

13. 現在、独立するとして何が一番問題になりそうですか。

ア. 資金不足

イ. カナダでの信用不足

ウ. カナダのこの方面での情報不足

エ. その他 ()

14. 今後カナダで取得したい資格、免許は何ですか。

(学校の卒業等を含めて)

15. 生活で英語の不自由は感じますか。

ア. ほとんど感じない

イ. 日常生活には不自由はない

ウ. 不自由で学校に通っている (又は通いたい)

16. 職場での英語に慣れるまでどの位かかりましたか。

ア. 3カ月以内

イ. 6カ月程度

ウ. 1カ年程度

エ. 2カ年程度

オ. 3カ年以上

17. 移住する場合の英語力についてどう考えられますか。

ア. 日本で徹底的にやるべきである

イ. ある程度出来ればよい

ウ. 技術さえあれば語学に神経質になる必要はない

エ. その他 ()

18. 新聞・雑誌は何をお読みですか。

ア. 主として英字 (仏字) 新聞を購読している

イ. 主として英字 (仏字) 週・月刊誌を購読している

ウ. 主として日本の新聞・雑誌を購読している

19. あなたの交際範囲について

ア. 交際範囲はほとんど日系人である

イ. 日系人とそれ以外が五分五分である

ウ. 日系人とはほとんど交際していない

エ. その他 ()

20. 現在の住いについてお聞かせ下さい。

- ア. 持家(購入価格 \$)
- イ. 借家(家賃 \$)
- ウ. アパートまたはフラット(家賃 \$)
- エ. 下宿(室代 \$)

21. 1カ月の生活費はどの位かかりますか。

- ア. \$ 200 以下
- イ. \$ 201 ~ \$ 300
- ウ. \$ 301 ~ \$ 400
- エ. \$ 401 ~ \$ 600
- オ. \$ 601 以上

○ 独身, 家族(名)

22. 現在貯蓄はどの位おありですか。現在長期の負債はどの位おありですか。

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ア. \$ 500 程度 | ア. なし |
| イ. \$ 1,000 程度 | イ. \$ 2,000 以下 |
| ウ. \$ 2,500 程度 | ウ. \$ 2,001 ~ \$ 4,000 |
| エ. \$ 5,000 程度 | エ. \$ 4,001 ~ \$ 6,000 |
| オ. \$ 10,000 程度 | オ. \$ 6,001 以上 |

23. 自動車をお持ちですか。

- ア. 持っている(新車・中古車)
- イ. 持っていない(持ちたい。持つ必要なし)

24. 結婚の相手は日系人を選びますか。

(既婚の方は現在の配偶者についてお答え下さい)

- ア. 日系人
 - a. 日本から呼ぶ
 - b. 日系移住者
 - c. 二世, 三世
- イ. 日系人以外(系)

25. 子供の日本語教育についてのお考えは。

- ア. 日本語教育の必要はない
- イ. 日本語は家庭で教えればよい
- ウ. 日本語の学校があれば通わせたい

26. スポーツ・趣味などのグループに参加されていますか。

ア. スポーツ関係 ()

イ. 音楽・演劇等 ()

ウ. その他 ()

27. 移住の動機について簡単にお書き下さい。

28. カナダ人に対するあなたの印象をお書き下さい。

29. 移住希望者に対してのアドバイスをお願いします。

30. 国際協力事業団への要望がありましたらお聞かせ下さい。

☆どうも長時間にわたり御協力ありがとうございました。

この貴重な資料を私共の仕事に充分活用させていただきます。

(1 9 7 5 . 9 - 5 0 0)

(1976. 3-2,000)

